

土質	項目	代表機材規格	施工方法											
			オープンカット						片切掘削					
			施工数量											
			5,000m ³ 未満			5,000m ³ 以上			-					
破砕片除去の有無														
無し	有り 50,000 m ³ 未満	有り 50,000 m ³ 以上	-	無し	有り 50,000 m ³ 未満	有り 50,000 m ³ 以上	無し	有り 50,000 m ³ 未満	有り 50,000 m ³ 以上	[削る。]				
集積押土の有無														
無し	有り	無し	無し	-	無し	有り	無し	無し	無し	[削る。]				
軟岩	機械	K1	バックホウ(クローラ型) [標準型・超低騒音型・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
			ブルドーザ [リッパ装置付・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 32t級				○							
		K2	大型ブレイカ (ベースマシン含まず) [油圧式] 質量1,300kg級	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
			ブルドーザ [湿地・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 20t級		○					○				
	K3		バックホウ(クローラ型) [標準型・排出ガス対策型 (2014年規制)] 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)			○					○			
			バックホウ(クローラ型) [標準型・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 山積1.4m ³ (平積1.0m ³)				○					○		
		R1	特殊作業員						○	○	○	○	○	
		R2	運転手(特殊)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	R3		普通作業員						○	○	○	○	○	
		R4	-											
材料		Z1	軽油 バトロール給油	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		Z2	-											
	Z3	-												
	Z4	-												
市場単価	S	-												
土質	項目	代表機材規格	施工方法											
			オープンカット						片切掘削					
			火薬使用											
			不可			可			不可					
破砕片除去の有無														
無し	有り 50,000 m ³ 未満	有り 50,000 m ³ 以上	-	無し	有り 50,000 m ³ 未満	有り 50,000 m ³ 以上	無し	有り 50,000 m ³ 未満	有り 50,000 m ³ 以上	[削る。]				
集積押土の有無														
無し	有り	無し	無し	-	無し	有り	無し	無し	無し	有り	無し	無し		

土質	項目	代表機材規格	施工方法											
			オープンカット						片切掘削					
			施工数量											
			5,000m ³ 未満			5,000m ³ 以上			-					
破砕片除去の有無														
無し	有り 50,000 m ³ 未満	有り 50,000 m ³ 以上	-	無し	有り 50,000 m ³ 未満	有り 50,000 m ³ 以上	無し	有り 50,000 m ³ 未満	有り 50,000 m ³ 以上	[削る。]				
集積押土の有無														
無し	有り	無し	無し	-	無し	有り	無し	無し	無し	[削る。]				
軟岩	機械	K1	バックホウ(クローラ型) [標準型・超低騒音型・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
			ブルドーザ [リッパ装置付・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 32t級				○							
		K2	大型ブレイカ (ベースマシン含まず) [油圧式] 質量1,300kg級	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
			ブルドーザ [湿地・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 20t級		○					○				
	K3		バックホウ(クローラ型) [標準型・排出ガス対策型 (2014年規制)] 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)			○					○			
			バックホウ(クローラ型) [標準型・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 山積1.4m ³ (平積1.0m ³)				○					○		
		R1	特殊作業員						○	○	○	○	○	
		R2	運転手(特殊)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	R3		普通作業員						○	○	○	○	○	
		R4	-											
材料		Z1	軽油 バトロール給油	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		Z2	-											
	Z3	-												
	Z4	-												
市場単価	S	-												
土質	項目	代表機材規格	施工方法											
			オープンカット						片切掘削					
			火薬使用											
			不可			可			不可					
破砕片除去の有無														
無し	有り 50,000 m ³ 未満	有り 50,000 m ³ 以上	-	無し	有り 50,000 m ³ 未満	有り 50,000 m ³ 以上	無し	有り 50,000 m ³ 未満	有り 50,000 m ³ 以上	[削る。]				
集積押土の有無														
無し	有り	無し	無し	-	無し	有り	無し	無し	無し	有り	無し	無し		

3-2・3-3 [略]

3-4 路体(築堤)盛土・埋戻

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3. 22 路体(築堤)盛土・埋戻 積算条件区分一覧 (積算単位：m³)

施工幅員	施工数量	障害の有無
2.5m以上4.0m未満	—	—
4.0m以上	20,000m³未満	無し
		有り
	20,000m³以上	無し
		有り

(注) 1. ～8. [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 23 路体(築堤)盛土・埋戻 代表機材規格一覧

施工幅員	施工数量	項目	代表機材規格	備考		
2.5m以上 4.0m未満	—	機械	K1 振動ローラ(舗装用) [搭乗コンバインド式・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 運転質量3～4 t	賃料		
			K2 バックホウ(クローラ型) [後方超小旋回型・低騒音型・排出ガス対策型 (2014年規制)] 山積0.28m³ (平積0.20m³)	賃料		
			K3 —			
		労務	R1 運転手(特殊)			
			R2 普通作業員			
			R3 —			
			R4 —			
		材料	Z1 軽油 バトロール給油			
			Z2 —			
			Z3 —			
			Z4 —			
		市場単価	S —			
		4.0m以上	20,000 m³未満	機械	K1 ブルドーザ [湿地・排出ガス対策型 (2011年規制)] 7 t 級	賃料
					K2 振動ローラ(土工用) [フラット・シングルドラム型・排出ガス対策型 (2011年規制)] 運転質量11～12 t	賃料
K3 —						
労務	R1 運転手(特殊)					
	R2 普通作業員					
	R3 —					
	R4 —					
材料	Z1 軽油 バトロール給油					
	Z2 —					
	Z3 —					
	Z4 —					
市場単価	S —					
4.0m以上	20,000 m³以上			機械	K1 ブルドーザ [湿地・排出ガス対策型 (2011年規制)] 16 t 級	賃料
					K2 振動ローラ(土工用) [フラット・シングルドラム型・排出ガス対策型 (2011年規制)] 運転質量11～12 t	賃料
		K3 —				
		労務	R1 運転手(特殊)			
			R2 普通作業員			
			R3 —			
			R4 —			
		材料	Z1 軽油 バトロール給油			
			Z2 —			
			Z3 —			
			Z4 —			
		市場単価	S —			

3-5 路床盛土

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3. 24 路床盛土 積算条件区分一覧 (積算単位：m³)

施工幅員	施工数量	障害の有無
2.5m以上4.0m未満	—	—

3-2・3-3 [略]

3-4 路体(築堤)盛土・埋戻

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3. 22 路体(築堤)盛土・埋戻 積算条件区分一覧 (積算単位：m³)

施工幅員	施工数量	障害の有無
2.5m以上4.0m未満	—	—
4.0m以上	10,000m³未満	無し
		有り
	10,000m³以上	無し
		有り

(注) 1. ～8. [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 23 路体(築堤)盛土・埋戻 代表機材規格一覧

施工幅員	施工数量	項目	代表機材規格	備考		
2.5m以上 4.0m未満	—	機械	K1 振動ローラ(舗装用) [搭乗コンバインド式・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 運転質量3～4 t	賃料		
			K2 バックホウ(クローラ型) [後方超小旋回型・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 山積0.28m³ (平積0.20m³)	賃料		
			K3 —			
		労務	R1 運転手(特殊)			
			R2 普通作業員			
			R3 —			
			R4 —			
		材料	Z1 軽油 バトロール給油			
			Z2 —			
			Z3 —			
			Z4 —			
		市場単価	S —			
		4.0m以上	10,000 m³未満	機械	K1 ブルドーザ [湿地・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 7 t 級	賃料
					K2 振動ローラ(土工用) [フラット・シングルドラム型・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 運転質量11～12 t	賃料
K3 —						
労務	R1 運転手(特殊)					
	R2 普通作業員					
	R3 —					
	R4 —					
材料	Z1 軽油 バトロール給油					
	Z2 —					
	Z3 —					
	Z4 —					
市場単価	S —					
4.0m以上	10,000 m³以上			機械	K1 ブルドーザ [湿地・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 16 t 級	賃料
					K2 振動ローラ(土工用) [フラット・シングルドラム型・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 運転質量11～12 t	賃料
		K3 —				
		労務	R1 運転手(特殊)			
			R2 普通作業員			
			R3 —			
			R4 —			
		材料	Z1 軽油 バトロール給油			
			Z2 —			
			Z3 —			
			Z4 —			
		市場単価	S —			

3-5 路床盛土

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3. 24 路床盛土 積算条件区分一覧 (積算単位：m³)

施工幅員	施工数量	障害の有無
2.5m以上4.0m未満	—	—

4.0m以上	20,000m ³ 未満	無し
		有り
	20,000m ³ 以上	無し
		有り

(注) 1. ～7. [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 25 路床盛土 代表機材規格一覧

施工幅員	施工数量	項目	代表機材規格	備考		
2.5m以上 4.0m未満	-	機械	K1 振動ローラ(舗装用) [搭乗コンバインド式・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 運転質量3～4 t	賃料		
			K2 バックホウ(クローラ型) [後方超小旋回型・低騒音型・排出ガス対策型 (2014年規制)] 山積0.28m ³ (平積0.20m ³)	賃料		
			K3 -			
		労務	R1 運転手(特殊)			
			R2 普通作業員			
			R3 -			
			R4 -			
		材料	Z1 軽油 バトロール給油			
			Z2 -			
			Z3 -			
			Z4 -			
		市場単価	S -			
		4.0m以上	20,000 m ³ 未満	機械	K1 ブルドーザ [湿地・排出ガス対策型 (2011年規制)] 7 t 級	賃料
					K2 振動ローラ(土工用) [フラット・シングルドラム型・排出ガス対策型 (2011年規制)] 運転質量11～12 t	賃料
K3 -						
労務	R1 運転手(特殊)					
	R2 普通作業員					
	R3 -					
	R4 -					
材料	Z1 軽油 バトロール給油					
	Z2 -					
	Z3 -					
	Z4 -					
市場単価	S -					
4.0m以上	20,000 m ³ 以上		機械	K1 ブルドーザ [湿地・排出ガス対策型 (2011年規制)] 16 t 級	賃料	
				K2 振動ローラ(土工用) [フラット・シングルドラム型・排出ガス対策型 (2011年規制)] 運転質量11～12 t	賃料	
		K3 -				
		労務	R1 運転手(特殊)			
			R2 普通作業員			
			R3 -			
			R4 -			
	材料	Z1 軽油 バトロール給油				
		Z2 -				
		Z3 -				
		Z4 -				
	市場単価	S -				

3-6～3-8 [略]

③・④ [略]

4.0m以上	10,000m ³ 未満	無し
		有り
	10,000m ³ 以上	無し
		有り

(注) 1. ～7. [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 25 路床盛土 代表機材規格一覧

施工幅員	施工数量	項目	代表機材規格	備考		
2.5m以上 4.0m未満	-	機械	K1 振動ローラ(舗装用) [搭乗コンバインド式・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 運転質量3～4 t	賃料		
			K2 バックホウ(クローラ型) [後方超小旋回型・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 山積0.28m ³ (平積0.20m ³)	賃料		
			K3 -			
		労務	R1 運転手(特殊)			
			R2 普通作業員			
			R3 -			
			R4 -			
		材料	Z1 軽油 バトロール給油			
			Z2 -			
			Z3 -			
			Z4 -			
		市場単価	S -			
		4.0m以上	10,000 m ³ 未満	機械	K1 ブルドーザ [湿地・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 7 t 級	賃料
					K2 振動ローラ(土工用) [フラット・シングルドラム型・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 運転質量11～12 t	賃料
K3 -						
労務	R1 運転手(特殊)					
	R2 普通作業員					
	R3 -					
	R4 -					
材料	Z1 軽油 バトロール給油					
	Z2 -					
	Z3 -					
	Z4 -					
市場単価	S -					
4.0m以上	10,000 m ³ 以上		機械	K1 ブルドーザ [湿地・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 16 t 級	賃料	
				K2 振動ローラ(土工用) [フラット・シングルドラム型・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 運転質量11～12 t	賃料	
		K3 -				
		労務	R1 運転手(特殊)			
			R2 普通作業員			
			R3 -			
			R4 -			
	材料	Z1 軽油 バトロール給油				
		Z2 -				
		Z3 -				
		Z4 -				
	市場単価	S -				

3-6～3-8 [略]

③・④ [略]

2. 共通工

①・② [略]

③ 補強盛土工

1.・2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1 ジオテキスタイル壁面材組立・設置

(1) 条件区分

ジオテキスタイル壁面材組立・設置に積算条件区分はない。

積算単位は、 m^2 とする。

(注) 1. ジオテキスタイルを用いた補強土壁工及び補強盛土工の壁面材の組立・設置、吸出し防止材の設置等、その施工に要するすべての費用を含む。

ただし、ジオテキスタイル壁面材（材料費）及び吸出し防止材の材料費は含まない。

2. ～4. [略]

(2) [略]

3-2 [略]

3-3 ジオテキスタイル敷設

(1) 条件区分

ジオテキスタイル敷設に積算条件区分はない。

積算単位は、 m^2 とする。

(注) 1. ジオテキスタイルを用いた補強土壁工及び補強盛土工のジオテキスタイルの敷設(ジオテキスタイル巻き込み作業含む)の他、ジオテキスタイル敷設に使用する杭、ハンマ、スコップ、ボール等、その施工に要するすべての費用を含む。

ただし、ジオテキスタイル（材料費）は含まない。

2. ～4. [略]

図 3. 1 補強盛土工標準断面図(参考図) [略]

(2) [略]

3-4 まき出し・敷均し、締固め

(1) 条件区分

まき出し・敷均し、締固めに積算条件区分はない。

積算単位は、 m^3 とする。

(注) 1. ジオテキスタイルを用いた補強土壁工及び補強盛土工のまき出し・敷均し、締固め、水平排水材、層厚管理材の設置の他、振動ローラ（ハンドガイド式）、タンパ及びランマの運転経費等、その施工に要するすべての費用を含む。

ただし、水平排水材、層厚管理材及び盛土材の材料費は含まない。

2. ・3. [略]

4. 盛土工範囲（図 3. 1 参考図参照）の盛土材については、必要に応じて別途計上する。

5. [略]

(2) [略]

3-5～3-7 [略]

4. [略]

④ プレキャスト擁壁工

2. 共通工

①・② [略]

③ 補強盛土工

1.・2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1 ジオテキスタイル壁面材組立・設置

(1) 条件区分

ジオテキスタイル壁面材組立・設置に積算条件区分はない。

積算単位は、 m^2 とする。

(注) 1. ジオテキスタイルを用いた補強土壁工及び盛土補強工の壁面材の組立・設置、吸出し防止材の設置等、その施工に要するすべての費用を含む。

ただし、ジオテキスタイル壁面材（材料費）及び吸出し防止材の材料費は含まない。

2. ～4. [略]

(2) [略]

3-2 [略]

3-3 ジオテキスタイル敷設

(1) 条件区分

ジオテキスタイル敷設に積算条件区分はない。

積算単位は、 m^2 とする。

(注) 1. ジオテキスタイルを用いた補強土壁工及び盛土補強工のジオテキスタイルの敷設(ジオテキスタイル巻き込み作業含む)の他、ジオテキスタイル敷設に使用する杭、ハンマ、スコップ、ボール等、その施工に要するすべての費用を含む。

ただし、ジオテキスタイル（材料費）は含まない。

2. ～4. [略]

図 3. 1 補強盛土工標準断面図(参考図) [略]

(2) [略]

3-4 まき出し・敷均し、締固め

(1) 条件区分

まき出し・敷均し、締固めに積算条件区分はない。

積算単位は、 m^3 とする。

(注) 1. ジオテキスタイルを用いた補強土壁工及び盛土補強工のまき出し・敷均し、締固め、水平排水材、層厚管理材の設置の他、振動ローラ（ハンドガイド式）、タンパ及びランマの運転経費等、その施工に要するすべての費用を含む。

ただし、水平排水材、層厚管理材及び盛土材の材料費は含まない。

2. ・3. [略]

4. ジオテキスタイル盛土工範囲（図 3. 1 参考図参照）の盛土材については、必要に応じて別途計上する。

5. [略]

(2) [略]

3-5～3-7 [略]

4. [略]

④ プレキャスト擁壁工

1. 適用範囲

[略]

1-1 適用できる範囲（以下のすべての条件に該当する場合）

- (1)・(2) [略]
- (3) ブロック単体の長さ：2.0m/個

※ブロック単体の長さとは、一連のプレキャスト擁壁の標準的な1部材の有効長であり、有効長未満の部材及び短尺、片斜切等の特殊加工部材が含まれる場合も適用できる。

2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1 プレキャスト擁壁設置

(1) [略]

(2) 代表機材規格
[略]

表 3. 2 プレキャスト擁壁設置 代表機材規格一覧

プレキャスト 擁壁高さ	項目		代表機材規格	備考
0.5m以上 2.0m以下	機械	K1	バックホウ（クローラ型） [標準型・ 超低騒音型 ・クレーン機能付・排出 ガス対策型（ 2014年規制 ）] 山積 0.8m ³ （平積 0.6m ³ ） 2.9t 吊	賃料
		K2	—	
		K3	—	
	労務	R1	普通作業員	
		R2	土木一般世話役	
		R3	特殊作業員	
		R4	運転手（特殊）	
	材料	Z1	コンクリート擁壁（中地震対応型） 宅認（q=10kN/m ² ） 1000型（L=2.0m）	プレキャスト擁壁高さ 0.5m を超え 1.0m以下の場合
			コンクリート擁壁（中地震対応型） 宅認（q=10kN/m ² ） 1600型（L=2.0m）	プレキャスト擁壁高さ 1.0m を超え 2.0m以下の場合
		Z2	軽油 パトロール給油	
		Z3	—	
	Z4	—		
	市場単価	S	—	
	2.0mを超え 5.0m以下	機械	K1	ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型（ 2014年規制 ）] 25t 吊
K2			—	
K3			—	
労務		R1	普通作業員	
		R2	土木一般世話役	
		R3	特殊作業員	
		R4	—	
材料		Z1	コンクリート擁壁（中地震対応型） 宅認（q=10kN/m ² ） 2500型（L=2.0m）	プレキャスト擁壁高さ 2.0m を超え 3.5m以下の場合
			コンクリート擁壁（中地震対応型） ハイタッチウォール宅認（q=10kN/m ² ） 4250 型（L=2.0m）	プレキャスト擁壁高さ 3.5m を超え 5.0m以下の場合
		Z2	—	
		Z3	—	
Z4		—		
市場単価		S	—	

1. 適用範囲

[略]

1-1 適用できる範囲（以下のすべての条件に該当する場合）

- (1)・(2) [略]
- (3) ブロック単体の長さ：2.0m/個

[新設]

2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1 プレキャスト擁壁設置

(1) [略]

(2) 代表機材規格
[略]

表 3. 2 プレキャスト擁壁設置 代表機材規格一覧

プレキャスト 擁壁高さ	項目		代表機材規格	備考
0.5m以上 2.0m以下	機械	K1	バックホウ（クローラ型） [標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型 （ 第3次基準値 ）] 山積 0.8m ³ （平積 0.6m ³ ） 2.9t 吊	賃料
		K2	—	
		K3	—	
	労務	R1	普通作業員	
		R2	土木一般世話役	
		R3	特殊作業員	
		R4	運転手（特殊）	
	材料	Z1	コンクリート擁壁（中地震対応型） 宅認（q=10kN/m ² ） 1000型（L=2.0m）	プレキャスト擁壁高さ 0.5m を超え 1.0m以下の場合
			コンクリート擁壁（中地震対応型） 宅認（q=10kN/m ² ） 1600型（L=2.0m）	プレキャスト擁壁高さ 1.0m を超え 2.0m以下の場合
		Z2	軽油 パトロール給油	
		Z3	—	
	Z4	—		
	市場単価	S	—	
	2.0mを超え 5.0m以下	機械	K1	ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型（ 第3次基準値 ）] 25t 吊
K2			—	
K3			—	
労務		R1	普通作業員	
		R2	土木一般世話役	
		R3	特殊作業員	
		R4	—	
材料		Z1	コンクリート擁壁（中地震対応型） 宅認（q=10kN/m ² ） 2500型（L=2.0m）	プレキャスト擁壁高さ 2.0m を超え 3.5m以下の場合
			コンクリート擁壁（中地震対応型） ハイタッチウォール宅認（q=10kN/m ² ） 4250 型（L=2.0m）	プレキャスト擁壁高さ 3.5m を超え 5.0m以下の場合
		Z2	—	
		Z3	—	
Z4		—		
市場単価		S	—	

⑤ 大型ブロック積（張）工

1. ・ 2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1 [略]

3-2 大型ブロック積

(1) 条件区分
[略]

表 3. 4 大型ブロック積 積算条件区分一覧 (積算単位：m²)
[略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 5 大型ブロック積 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	バックホウ（クローラ型）[標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(2014年規制)]山積0.8m3(平積0.6m3)吊能力2.9t	賃料 2,000kg/個以下の場合
		ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第3次基準値)]25t吊	賃料 2,000kg/個超えの場合
	K2	[削る。]	[削る。]
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	ブロック工	
	R3	土木一般世話役	
	R4	特殊作業員	
材料	Z1	大型ブロック 控え 500mm	2,000kg/個以下の場合
		大型ブロック 控え 2000mm	2,000kg/個超えの場合
	Z2	軽油 バトロール給油	
	Z3	—	
Z4	—		
市場単価	S	—	

3-3 [略]

3-4 平ブロック張

(1) 条件区分
[略]

表 3. 13 平ブロック張 積算条件区分一覧 (積算単位：m²)
[略]

(注) 1. 上表は、平ブロック（勾配1割以上・ブロック質量150kg/個以上770kg/個以下）の設置、連結金具組立（材料費を含む）、裏込材（砕石）投入、調整コンクリートの打設（材料費を含む）、吸出し防止材、遮水シート張（ブロック背面、基礎、横帯（隔壁）、小口止の端部継手）、現場内小運搬（50mまで）の他、タンバ締固めの損料、目地モルタルを使用した場合の材料費・設置手間等、その施工に必要なすべての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。

2. ～6. [略]

表 3. 14 裏込材 10m²当り使用量 [略]

表 3. 15 連結金具 10m²当り使用量 [略]

⑤ 大型ブロック積（張）工

1. ・ 2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1 [略]

3-2 大型ブロック積

(1) 条件区分
[略]

表 3. 4 大型ブロック積 積算条件区分一覧 (積算単位：m²)
[略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 5 大型ブロック積 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	バックホウ（クローラ型）[標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(2014年規制)]山積0.8m3(平積0.6m3)吊能力2.9t	賃料 2,000kg/個以下
		[新設]	[新設]
	K2	ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第3次基準値)]25t吊	賃料 2,000kg/個超え
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	ブロック工	
	R3	土木一般世話役	
	R4	特殊作業員	
材料	Z1	大型ブロック 控え 500mm	[新設]
		[新設]	[新設]
	Z2	軽油 バトロール給油	
	Z3	—	
Z4	—		
市場単価	S	—	

3-3 [略]

3-4 平ブロック張

(1) 条件区分
[略]

表 3. 13 平ブロック張 積算条件区分一覧 (積算単位：m²)
[略]

(注) 1. 上表は、平ブロック（勾配1割以上・ブロック質量150kg/個以上770kg/個以下）の設置、連結金具組立、裏込材（砕石）投入、調整コンクリートの打設（材料費を含む）、吸出し防止材、遮水シート張（ブロック背面、基礎、横帯（隔壁）、小口止の端部継手）、現場内小運搬（50mまで）の他、タンバ締固めの損料、目地モルタルを使用した場合の材料費・設置手間等、その施工に必要なすべての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。

2. ～6. [略]

表 3. 14 裏込材 10m²当り使用量 [略]

表 3. 15 連結金具 10m²当り使用量 [略]

(2) [略]

3-5~3-9 [略]

3-10 現場打基礎コンクリート

(1) 条件区分
[略]

表 3. 27 現場打基礎コンクリート 積算条件区分一覧 (積算単位: m³)
[略]

(注) 1. 上表は、現場打基礎コンクリートにおけるコンクリート打設、型枠、養生、基礎砕石、はく離材塗布、ケレン作業、現場内小運搬、目地板の施工の他、型枠用合板、鋼製型枠、型枠用金物、組立支持材、さん木、洋釘、はく離剤、電気ドリル、電動ノコギリ、コンクリートパイプレータ、コンクリートバケット損料及び電力に係る経費等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料を含む)を含む。
2. ~6. [略]

(2) [略]

3-11 現場打小口止コンクリート

(1) 条件区分
[略]

表 3. 30 現場打小口止コンクリート 積算条件区分一覧 (積算単位: m³)
[略]

(注) 1. 上表は、現場打小口止コンクリートにおけるコンクリート打設、型枠、養生、はく離材塗布、ケレン作業の施工の他、型枠用合板、鋼製型枠、型枠用金物、組立支持材、さん木、洋釘、はく離材、電気ドリル、電動ノコギリ、コンクリートパイプレータ、コンクリートバケット損料及び電力に関する経費等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. コンクリートの材料ロスを含む。(標準ロス率は、+0.07)
3.・4. [略]

(2) [略]

3-12 現場打横帯(隔壁)コンクリート

(1) 条件区分
[略]

表 3. 32 現場打横帯(隔壁)コンクリート 積算条件区分一覧 (積算単位: m³)
[略]

(注) 1. 上表は、現場打横帯(隔壁)コンクリートにおけるコンクリート打設、型枠、養生、はく離材塗布、ケレン作業の施工の他、型枠用合板、鋼製型枠、型枠用金物、組立支持材、さん木、洋釘、はく離材、電気ドリル、電動ノコギリ、コンクリートパイプレータ、コンクリートバケット損料及び電力に関する経費等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. コンクリートの材料ロスを含む。(標準ロス率は、+0.07)
3.・4. [略]

(2) [略]

3-13 現場打天端コンクリート

(1) 条件区分
[略]

表 3. 34 現場打天端コンクリート 積算条件区分一覧 (積算単位: m³)
[略]

(注) 1. 上表は、現場打天端コンクリートにおけるコンクリート打設、型枠、養生、はく離材塗布、ケレン作業の施工の他、型枠用合板、鋼製型枠、型枠用金物、組立支持材、さん木、洋釘、はく離剤、電気ドリル、電動ノコギリ、コンクリートパイプレータ、コンクリートバケット損料及び電力に関する経費、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. コンクリートの材料ロスを含む。(標準ロス率は、+0.07)
3.・4. [略]

(2) [略]

3-5~3-9 [略]

3-10 現場打基礎コンクリート

(1) 条件区分
[略]

表 3. 27 現場打基礎コンクリート 積算条件区分一覧 (積算単位: m³)
[略]

(注) 1. 上表は、コンクリート、基礎材、目地板、型枠用合板、鋼製型枠、型枠用金物、組立支持材、さん木、洋釘、はく離剤、電気ドリル、電動ノコギリ、コンクリートパイプレータ、コンクリートバケット損料及び電力に係る経費、コンクリート打設、養生等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料を含む)を含む。
2. ~6. [略]

(2) [略]

3-11 現場打小口止コンクリート

(1) 条件区分
[略]

表 3. 30 現場打小口止コンクリート 積算条件区分一覧 (積算単位: m³)
[略]

(注) 1. 上表は、現場打ちによる小口止コンクリート設置におけるコンクリート、型枠(製作・設置・撤去)、雑機械器具(電気ドリル、電気ノコギリ、コンクリート打設機器)の損料及び電力に関する経費等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. 生コンクリートの材料ロスを含む。(標準ロス率は、+0.07)
3.・4. [略]

(2) [略]

3-12 現場打横帯(隔壁)コンクリート

(1) 条件区分
[略]

表 3. 32 現場打横帯(隔壁)コンクリート 積算条件区分一覧 (積算単位: m³)
[略]

(注) 1. 上表は、現場打ちによる横帯(隔壁)コンクリート設置におけるコンクリート、型枠(製作・設置・撤去)、雑機械器具(電気ドリル、電気ノコギリ、コンクリート打設機器)の損料及び電力に関する経費等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. 生コンクリートの材料ロスを含む。(標準ロス率は、+0.07)
3.・4. [略]

(2) [略]

3-13 現場打天端コンクリート

(1) 条件区分
[略]

表 3. 34 現場打天端コンクリート 積算条件区分一覧 (積算単位: m³)
[略]

(注) 1. 上表は、コンクリート、型枠用合板、鋼製型枠、型枠用金物、組立支持材、さん木、洋釘、はく離剤、電気ドリル、電動ノコギリ、コンクリートパイプレータ、コンクリートバケット損料及び電力に関する経費、コンクリート打設、養生等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. 生コンクリートの材料ロスを含む。(標準ロス率は、+0.07)
3.・4. [略]

(2) [略]

3-14~3-21 [略]

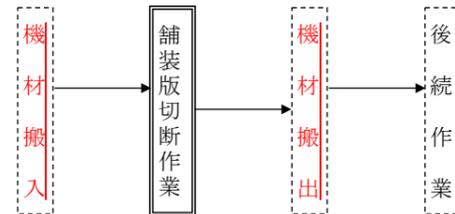
4. [略]

⑥・⑦ [略]

⑧ 舗装版切断工

1. [略]

2. 施工概要
[略]



[略]

3. 施工パッケージ

3-1 舗装版切断

(1) [略]

(2) 代表機材規格
[略]

表 3. 2 舗装版切断 代表機材規格一覧

舗装版種別	項目	代表機材規格	備考
アスファルト 舗装版	機械	コンクリートカッター [バキューム式 (超低騒音型)・湿式] 切削深 20cm 級 ブレード径 φ56cm	舗装版厚が 15cm 以下の場合
		コンクリートカッター [バキューム式 (超低騒音型)・湿式] 切削深 30cm 級 ブレード径 φ75cm	舗装版厚が 15cm を超え 30cm 以下の場合
		コンクリートカッター [バキューム式 (超低騒音型)・湿式] 切削深 40cm 級 ブレード径 φ96cm	舗装版厚が 30cm を超え 40cm 以下の場合
	K2	—	
	K3	—	
	コンクリート 舗装版	労務	R1
R2			一般土木世話役
R3			普通作業員
R4			—
	材料	コンクリートカッター (ブレード) 径 18 インチ	舗装版厚が 15cm 以下の場合
		コンクリートカッター (ブレード) 径 30 インチ	舗装版厚が 15cm を超え 30cm 以下の場合
		コンクリートカッター (ブレード) 径 38 インチ	舗装版厚が 30cm を超え 40cm 以下の場合
	Z2	ガソリン レギュラー スタンド	舗装版厚が 15cm 以下の場合
		コンクリートカッター (ブレード) 径 18 インチ	舗装版厚が 15cm を超え 30cm 以下の場合

(2) [略]

3-14~3-21 [略]

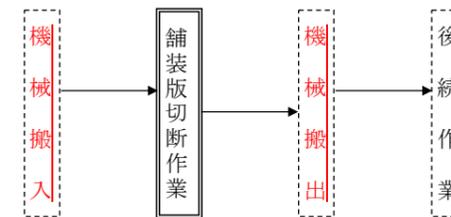
4. [略]

⑥・⑦ [略]

⑧ 舗装版切断工

1. [略]

2. 施工概要
[略]



[略]

3. 施工パッケージ

3-1 舗装版切断

(1) [略]

(2) 代表機材規格
[略]

表 3. 2 舗装版切断 代表機材規格一覧

舗装版種別	項目	代表機材規格	備考
アスファルト 舗装版	機械	コンクリートカッター [バキューム式・湿式] 切削深 20cm 級 ブレード径 φ56cm	舗装版厚が 15cm 以下の場合
		コンクリートカッター [バキューム式 (超低騒音型)・湿式] 切削深 30cm 級 ブレード径 φ75cm	舗装版厚が 15cm を超え 30cm 以下の場合
		コンクリートカッター [バキューム式 (超低騒音型)・湿式] 切削深 40cm 級 ブレード径 φ96cm	舗装版厚が 30cm を超え 40cm 以下の場合
	K2	—	
	K3	—	
	コンクリート 舗装版	労務	R1
R2			一般土木世話役
R3			普通作業員
R4			—
	材料	コンクリートカッター (ブレード) 径 22 インチ	舗装版厚が 15cm 以下の場合
		コンクリートカッター (ブレード) 径 30 インチ	舗装版厚が 15cm を超え 30cm 以下の場合
		コンクリートカッター (ブレード) 径 38 インチ	舗装版厚が 30cm を超え 40cm 以下の場合
	Z2	ガソリン レギュラー スタンド	舗装版厚が 15cm 以下の場合
		コンクリートカッター (ブレード) 径 22 インチ	舗装版厚が 15cm を超え 30cm 以下の場合

		Z3	コンクリートカッタ (ブレード) 径 30 インチ	舗装版厚が 30cm を超え 40cm 以下の場合	
			コンクリートカッタ (ブレード) 径 14 インチ	舗装版厚が 15cm を超え 30cm 以下の場合	
			コンクリートカッタ (ブレード) 径 22 インチ	舗装版厚が 30cm を超え 40cm 以下の場合	
		Z4	ガソリン レギュラー スタンド	舗装版厚が 15cm を超え 30cm 以下の場合	
			コンクリートカッタ (ブレード) 径 14 インチ	舗装版厚が 30cm を超え 40cm 以下の場合	
	市場単価	S	—		
	コンクリート + アスファルト (カバー) 舗装版	機械	K1	コンクリートカッタ [バキューム式 (超低騒音型)・湿式] 切削深 20cm 級 ブレード径 φ56cm	全体厚が 15cm 以下の場合
				コンクリートカッタ [バキューム式 (超低騒音型)・湿式] 切削深 30cm 級 ブレード径 φ75cm	全体厚が 15cm を超え 30cm 以下の場合
				コンクリートカッタ [バキューム式 (超低騒音型)・湿式] 切削深 40cm 級 ブレード径 φ96cm	全体厚が 30cm を超え 40cm 以下の場合
K2			—		
K3			—		
労務			R1	特殊作業員	
		R2	一般土木世話役		
		R3	普通作業員		
		R4	—		
材料		Z1	コンクリートカッタ (ブレード) 径 18 インチ	全体厚が 15cm 以下の場合	
			コンクリートカッタ (ブレード) 径 30 インチ	全体厚が 15cm を超え 30cm 以下の場合	
			コンクリートカッタ (ブレード) 径 38 インチ	全体厚が 30cm を超え 40cm 以下の場合	
		Z2	ガソリン レギュラー スタンド	全体厚が 15cm 以下の場合	
			コンクリートカッタ (ブレード) 径 18 インチ	全体厚が 15cm を超え 30cm 以下の場合	
			コンクリートカッタ (ブレード) 径 30 インチ	全体厚が 30cm を超え 40cm 以下の場合	
		Z3	コンクリートカッタ (ブレード) 径 14 インチ	全体厚が 15cm を超え 30cm 以下の場合	
			コンクリートカッタ (ブレード) 径 22 インチ	全体厚が 30cm を超え 40cm 以下の場合	
			ガソリン レギュラー スタンド	全体厚が 15cm を超え 30cm 以下の場合	
		Z4	コンクリートカッタ (ブレード) 径 14 インチ	全体厚が 30cm を超え 40cm 以下の場合	
		市場単価	S	—	

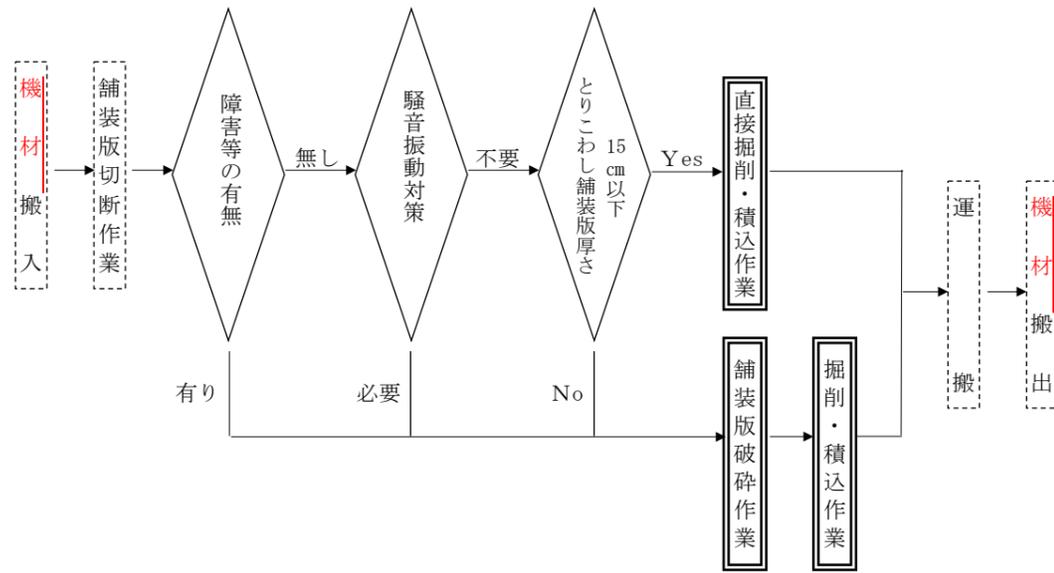
⑨ 舗装版破碎工

1. [略]
2. 施工概要 [略]

		Z3	コンクリートカッタ (ブレード) 径 30 インチ	舗装版厚が 30cm を超え 40cm 以下の場合	
			コンクリートカッタ (ブレード) 径 14 インチ	舗装版厚が 15cm を超え 30cm 以下の場合	
			コンクリートカッタ (ブレード) 径 22 インチ	舗装版厚が 30cm を超え 40cm 以下の場合	
		Z4	ガソリン レギュラー スタンド	舗装版厚が 15cm を超え 30cm 以下の場合	
			コンクリートカッタ (ブレード) 径 14 インチ	舗装版厚が 30cm を超え 40cm 以下の場合	
	市場単価	S	—		
	コンクリート + アスファルト (カバー) 舗装版	機械	K1	コンクリートカッタ [バキューム式・湿式] 切削深 20cm 級 ブレード径 φ56cm	全体厚が 15cm 以下の場合
				コンクリートカッタ [バキューム式 (超低騒音型)・湿式] 切削深 30cm 級 ブレード径 φ75cm	全体厚が 15cm を超え 30cm 以下の場合
				コンクリートカッタ [バキューム式 (超低騒音型)・湿式] 切削深 40cm 級 ブレード径 φ96cm	全体厚が 30cm を超え 40cm 以下の場合
K2			—		
K3			—		
労務			R1	特殊作業員	
		R2	一般土木世話役		
		R3	普通作業員		
		R4	—		
材料		Z1	コンクリートカッタ (ブレード) 径 22 インチ	全体厚が 15cm 以下の場合	
			コンクリートカッタ (ブレード) 径 30 インチ	全体厚が 15cm を超え 30cm 以下の場合	
			コンクリートカッタ (ブレード) 径 38 インチ	全体厚が 30cm を超え 40cm 以下の場合	
		Z2	ガソリン レギュラー スタンド	全体厚が 15cm 以下の場合	
			コンクリートカッタ (ブレード) 径 22 インチ	全体厚が 15cm を超え 30cm 以下の場合	
			コンクリートカッタ (ブレード) 径 30 インチ	全体厚が 30cm を超え 40cm 以下の場合	
		Z3	コンクリートカッタ (ブレード) 径 14 インチ	全体厚が 15cm を超え 30cm 以下の場合	
			コンクリートカッタ (ブレード) 径 22 インチ	全体厚が 30cm を超え 40cm 以下の場合	
			ガソリン レギュラー スタンド	全体厚が 15cm を超え 30cm 以下の場合	
		Z4	コンクリートカッタ (ブレード) 径 14 インチ	全体厚が 30cm を超え 40cm 以下の場合	
		市場単価	S	—	

⑨ 舗装版破碎工

1. [略]
2. 施工概要 [略]



[略]

3. 施工パッケージ

3-1 舗装版破碎

(1) 条件区分

[略]

表 3. 1 舗装版破碎 積算条件区分一覧 [略]

(注) 1. ~ 6. [略]

7. 「建設工事に伴う騒音、振動対策技術指針」の第2章適用範囲外の地域となった場合においても、施工上騒音振動対策が必要となった場合は、舗装版厚さに関わらず、下記を選択することが出来る。

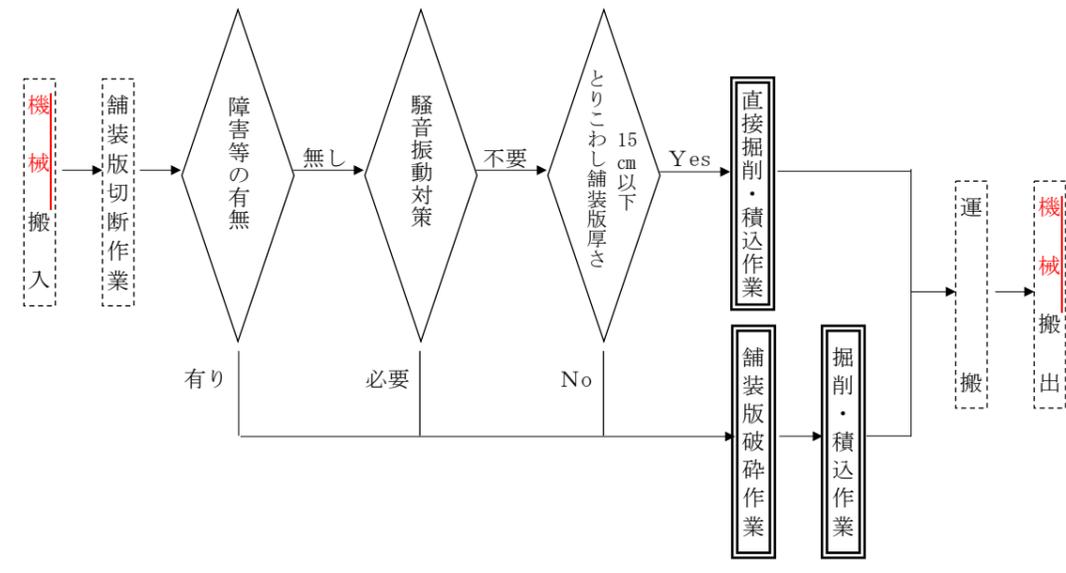
- ・騒音振動対策「必要」(コンクリート圧砕装置による破碎)
- ・騒音振動対策「不要」、かつ舗装版厚「15cm以下」(バックホウによる直接掘削・積込)

(2) 代表機材規格

[略]

表 3. 2 舗装版破碎 代表機材規格一覧

障害等の有無	騒音振動対策	舗装版厚	項目	代表機材規格	備考	
無し	不要	15cm以下	機械	K1	バックホウ(クローラ型) [後方超小旋回型・超低騒音型・排出ガス対策型(2011年規制)] 山積 0.45m ³ (平積 0.35m ³)	賃料
				K2	—	
				K3	—	
			労務	R1	土木一般世話役	
				R2	運転手(特殊)	
				R3	普通作業員	
				R4	—	
			材料	Z1	軽油 パトロール給油	
				Z2	—	
				Z3	—	
				Z4	—	
			市場	S	—	



[略]

3. 施工パッケージ

3-1 舗装版破碎

(1) 条件区分

[略]

表 3. 1 舗装版破碎 積算条件区分一覧 [略]

(注) 1. ~ 6. [略]

[新設]

(2) 代表機材規格

[略]

表 3. 2 舗装版破碎 代表機材規格一覧

障害等の有無	騒音振動対策	舗装版厚	項目	代表機材規格	備考	
無し	不要	15cm以下	機械	K1	バックホウ(クローラ型) [標準型・排出ガス対策型(第3次基準値)] 山積 0.45m ³ (平積 0.35m ³)	賃料
				K2	—	
				K3	—	
			労務	R1	土木一般世話役	
				R2	運転手(特殊)	
				R3	普通作業員	
				R4	—	
			材料	Z1	軽油 パトロール給油	
				Z2	—	
				Z3	—	
				Z4	—	
			市場	S	—	

			単価			
		15cm 超	機械	K1	バックホウ (クローラ型) [後方超小旋回型・超低騒音型・排出ガス対策型 (2011年規制)] 山積 0.45m ³ (平積 0.35m ³)	賃料
				K2	大型ブレード (油圧ブレード) バケット容量 0.4m ³ アタッチメントのみ	賃料
				K3	—	
			労務	R1	運転手 (特殊)	
				R2	普通作業員	
				R3	土木一般世話役	
				R4	—	
			材料	Z1	軽油 パトロール給油	
				Z2	—	
				Z3	—	
				Z4	—	
			市場単価	S	—	
			機械	K1	バックホウ (クローラ型) [後方超小旋回型・超低騒音型・排出ガス対策型 (2011年規制)] 山積 0.45m ³ (平積 0.35m ³)	賃料
				K2	バックホウ用アタッチメント [コンクリート圧砕装置[大割機]]開口幅735~850mm 破砕力550~980kN	
				K3	—	
			労務	R1	普通作業員	
				R2	土木一般世話役	
				R3	運転手 (特殊)	
				R4	—	
			材料	Z1	軽油 パトロール給油	
				Z2	—	
				Z3	—	
				Z4	—	
			市場単価	S	—	
			機械	K1	空気圧縮機 [可搬式・エンジン駆動・スクリュ型・超低騒音型・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 3.5~3.7m ³ /min	賃料
				K2	さく岩機 [コンクリートブレード] 20kg 級	
				K3	—	
			労務	R1	特殊作業員	
				R2	普通作業員	
				R3	—	
				R4	—	
			材料	Z1	軽油 パトロール給油	
				Z2	—	
				Z3	—	
				Z4	—	
			市場単価	S	—	

⑩・⑪ [略]

⑫ アンカー工 (ロータリーパーカッション式)

			単価			
		15cm 超	機械	K1	バックホウ (クローラ型) [標準型・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 山積 0.45m ³ (平積 0.35m ³)	賃料
				K2	大型ブレード [油圧式] (ベースマシン含まず) 質量 600~800kg 級	[新設]
				K3	—	
			労務	R1	運転手 (特殊)	
				R2	普通作業員	
				R3	土木一般世話役	
				R4	—	
			材料	Z1	軽油 パトロール給油	
				Z2	—	
				Z3	—	
				Z4	—	
			市場単価	S	—	
			機械	K1	バックホウ (クローラ型) [標準型・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 山積 0.45m ³ (平積 0.35m ³)	賃料
				K2	バックホウ用アタッチメント [コンクリート圧砕装置[大割機]]開口幅735~850mm 破砕力550~980kN	
				K3	—	
			労務	R1	普通作業員	
				R2	土木一般世話役	
				R3	運転手 (特殊)	
				R4	—	
			材料	Z1	軽油 パトロール給油	
				Z2	—	
				Z3	—	
				Z4	—	
			市場単価	S	—	
			機械	K1	空気圧縮機 [可搬式・エンジン駆動・スクリュ型・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 3.5~3.7m ³ /min	賃料
				K2	さく岩機 [コンクリートブレード] 20kg 級	
				K3	—	
			労務	R1	特殊作業員	
				R2	普通作業員	
				R3	—	
				R4	—	
			材料	Z1	軽油 パトロール給油	
				Z2	—	
				Z3	—	
				Z4	—	
			市場単価	S	—	

⑩・⑪ [略]

⑫ アンカー工 (ロータリーパーカッション式)

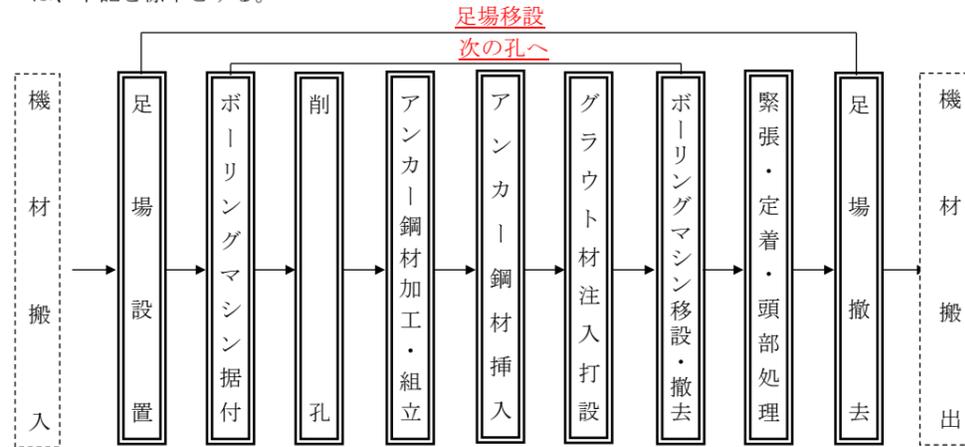
1. 適用範囲

本資料は、ロータリーパーカッション式ボーリングマシンにより 二重管による 削孔を行い、アンカー鋼材にて引張力を地盤に伝達し、長期に供用するグラウンドアンカー工法に適用する。

1-1・1-2 [略]

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



(注) [略]

3. 施工パッケージ

3-1 削孔 (アンカー)

(1) 条件区分

[略]

表 3. 1 削孔 (アンカー) 積算条件区分一覧

(積算単位: m)

足場工の有無	[削る。]	呼び径	土質
有り (スキッド型)	[削る。]	[削る。]	[削る。]
		[削る。]	
		[削る。]	
	[削る。]	90mm	(表 3. 2)
		115mm	
	135mm		
	146mm		
無し (クローラ型)	[削る。]	[削る。]	[削る。]
		[削る。]	
		[削る。]	
	[削る。]	90mm	(表 3. 2)
		115mm	
	135mm		
	146mm		

(注) 1. 上表はアンカー孔の削孔、ドリルパイプの引抜き、ボーリングマシン横移動作業、削孔材料損耗品費の他、削孔水用ポンプ、給水用ポンプ、排水用ポンプ、空気圧縮機、水槽損料、電力に関する経費等、その施工に要するすべての機械・労務・材料費 (損料を含む) を含む。

2. ~4. [略]

[削る。]

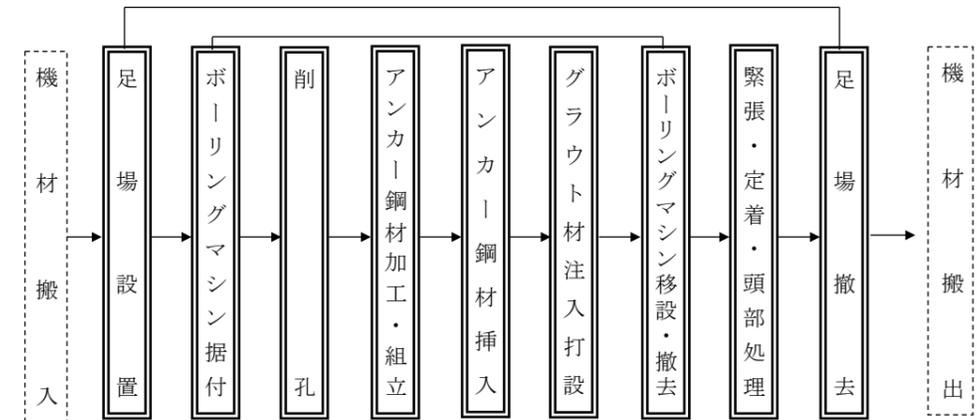
1. 適用範囲

本資料は、ロータリーパーカッション式ボーリングマシンにより削孔を行い、アンカー鋼材にて引張力を地盤に伝達し、長期に供用するグラウンドアンカー工法に適用する。

1-1・1-2 [略]

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



(注) [略]

3. 施工パッケージ

3-1 削孔 (アンカー)

(1) 条件区分

[略]

表 3. 1 削孔 (アンカー) 積算条件区分一覧

(積算単位: m)

足場工の有無	方式	呼び径	土質
有り (スキッド型)	単管方式	90mm	(表 3. 2)
		115mm	
		135mm	
	二重管方式	90mm	(表 3. 3)
		115mm	
	135mm		
	146mm		
無し (クローラ型)	単管方式	90mm	(表 3. 2)
		115mm	
		135mm	
	二重管方式	90mm	(表 3. 3)
		115mm	
	135mm		
	146mm		

(注) 1. 上表はアンカー孔の削孔、ドリルパイプの引抜き、ボーリングマシン横移動作業、削孔材料損耗品費の他、削孔水用ポンプ、給水用ポンプ、排水用ポンプ、水槽損料、電力に関する経費等、その施工に要するすべての機械・労務・材料費 (損料を含む) を含む。

2. ~4. [略]

表 3. 2 土質 (単管方式)

積算条件	区分
土質	粘性土・砂質土
	礫質土
	玉石混り土

表 3. 2 土質 [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 3 削孔（アンカー） 代表機材規格一覧

方式	項目		代表機材規格	備考		
[削る。]	[削る。]	[削る。]	[削る。]	[削る。]		
			[削る。]	[削る。]		
		[削る。]	[削る。]			
		[削る。]	[削る。]			
	[削る。]	[削る。]	[削る。]	[削る。]		
			[削る。]	[削る。]		
			[削る。]	[削る。]		
			[削る。]	[削る。]		
	[削る。]	[削る。]	[削る。]	[削る。]	[削る。]	
				[削る。]	[削る。]	
			[削る。]	[削る。]		
			[削る。]	[削る。]		
		[削る。]	[削る。]	[削る。]	[削る。]	
				[削る。]	[削る。]	
				[削る。]	[削る。]	
				[削る。]	[削る。]	
		[削る。]	[削る。]	[削る。]	[削る。]	
				[削る。]	[削る。]	
				[削る。]	[削る。]	
				[削る。]	[削る。]	
[削る。]	[削る。]	[削る。]				
[削る。]	機械	K1	ボーリングマシン[ロータリパーカッション式] スキット型55kW級	足場工有りの場合		
			ボーリングマシン[ロータリパーカッション式] クローラ型81kW級	足場工無しの場合		
		K2	—			
		K3	—			
	労務	R1	普通作業員			
		R2	土木一般世話役			
		R3	特殊作業員			
		R4	—			
	材料	Z1	インナーロッドφ90mm用(1.5m)	呼び径90mmの場合		
			インナーロッドφ115mm用(1.5m)	呼び径115mmの場合		
			インナーロッドφ135mm用(1.5m)	呼び径135mmの場合		
			インナーロッドφ146mm用(1.5m)	呼び径146mmの場合		
		Z2	インナービットφ90mm用	呼び径90mmの場合		
			インナービットφ115mm用	呼び径115mmの場合		
			インナービットφ135mm用	呼び径135mmの場合		
			インナービットφ146mm用	呼び径146mmの場合		
		Z3	リングビットφ90mm用	呼び径90mmの場合		
			リングビットφ115mm用	呼び径115mmの場合		
			リングビットφ135mm用	呼び径135mmの場合		
			リングビットφ146mm用	呼び径146mmの場合		
Z4	ドリルパイプφ90mm用(1.5m)	呼び径90mmの場合				
	ドリルパイプφ115mm用(1.5m)	呼び径115mmの場合				
	ドリルパイプφ135mm用(1.5m)	呼び径135mmの場合				

表 3. 3 土質 (二重管方式) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 4 削孔（アンカー） 代表機材規格一覧

方式	項目		代表機材規格	備考
[削る。]	機械	K1	ボーリングマシン[ロータリパーカッション式] スキット型55kW級	足場工有りの場合
			ボーリングマシン[ロータリパーカッション式] クローラ型81kW級	足場工無しの場合
		K2	—	
		K3	—	
	労務	R1	普通作業員	
		R2	土木一般世話役	
		R3	特殊作業員	
		R4	—	
	材料	Z1	リングビットφ90mm用	呼び径90mmの場合
			リングビットφ115mm用	呼び径115mmの場合
			リングビットφ135mm用	呼び径135mmの場合
			ドリルパイプφ90mm用(1.5m)	呼び径90mmの場合
		Z2	ドリルパイプφ115mm用(1.5m)	呼び径115mmの場合
			ドリルパイプφ135mm用(1.5m)	呼び径135mmの場合
			シャンクロッドφ90mm用	呼び径90mmの場合
			シャンクロッドφ115mm用	呼び径115mmの場合
		Z3	シャンクロッドφ135mm用	呼び径135mmの場合
			打込アダプタφ90mm用	呼び径90mmの場合
			打込アダプタφ115mm用	呼び径115mmの場合
			打込アダプタφ135mm用	呼び径135mmの場合
市場単価	S	—		
[削る。]	機械	K1	ボーリングマシン[ロータリパーカッション式] スキット型55kW級	足場工有りの場合
			ボーリングマシン[ロータリパーカッション式] クローラ型81kW級	足場工無しの場合
		K2	—	
		K3	—	
	労務	R1	普通作業員	
		R2	土木一般世話役	
		R3	特殊作業員	
		R4	—	
	材料	Z1	インナーロッドφ90mm用(1.5m)	呼び径90mmの場合
			インナーロッドφ115mm用(1.5m)	呼び径115mmの場合
			インナーロッドφ135mm用(1.5m)	呼び径135mmの場合
			インナーロッドφ146mm用(1.5m)	呼び径146mmの場合
		Z2	インナービットφ90mm用	呼び径90mmの場合
			インナービットφ115mm用	呼び径115mmの場合
			インナービットφ135mm用	呼び径135mmの場合
			インナービットφ146mm用	呼び径146mmの場合
		Z3	リングビットφ90mm用	呼び径90mmの場合
			リングビットφ115mm用	呼び径115mmの場合
			リングビットφ135mm用	呼び径135mmの場合
			リングビットφ146mm用	呼び径146mmの場合
Z4	ドリルパイプφ90mm用(1.5m)	呼び径90mmの場合		
	ドリルパイプφ115mm用(1.5m)	呼び径115mmの場合		
	ドリルパイプφ135mm用(1.5m)	呼び径135mmの場合		

			ドリルパイプφ146mm用(1.5m)	呼び径146mmの場合
	市場単価	S	—	

3-2 アンカー鋼材加工・組立・挿入・緊張・定着・頭部処理（アンカー）

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3. 4 アンカー鋼材加工・組立・挿入・緊張・定着・頭部処理（アンカー） 積算条件区分一覧 (積算単位：本)

防食方式	アンカー鋼材	削孔長	設計荷重 (f)	頭部処理の有無
二重防食	PC鋼線より線	(表 3. 5)	(表 3. 6)	(表 3. 7)
	PC鋼線より線 (工場組立)	—		
	複合PC鋼線より線束	(表 3. 5)	f < 400kN	
	PC鋼棒		400 ≤ f < 1, 300kN	
簡易防食	PC鋼線より線	(表 3. 5)	(表 3. 6)	
	PC鋼線より線 (工場組立)	(表 3. 5)		
	PC鋼棒	(表 3. 5)	f < 400kN	
			400 ≤ f < 1, 300kN	

(注) [略]

表 3. 5 削孔長 [略]

表 3. 6 設計荷重 [略]

表 3. 7 頭部処理の有無 [略]

(2) 代表機材規格

[略]

表 3. 8 アンカー鋼材加工・組立・挿入・緊張・定着・頭部処理（アンカー） 代表機材規格一覧 [略]

3-3 グラウト注入（アンカー）

(1) [略]

(2) 代表機材規格

[略]

表 3. 9 グラウト注入（アンカー） 代表機材規格一覧 [略]

3-4 ボーリングマシン移設（アンカー）

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 10 ボーリングマシン移設（アンカー） 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 25t 吊	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	土木一般世話役	
	R3	特殊作業員	
	R4	—	
材料	Z1	—	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	

			ドリルパイプφ146mm用(1.5m)	呼び径146mmの場合
	市場単価	S	—	

3-2 アンカー鋼材加工・組立・挿入・緊張・定着・頭部処理（アンカー）

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3. 5 アンカー鋼材加工・組立・挿入・緊張・定着・頭部処理（アンカー） 積算条件区分一覧 (積算単位：本)

防食方式	アンカー鋼材	削孔長	設計荷重 (f)	頭部処理の有無
二重防食	PC鋼線より線	(表 3. 6)	(表 3. 7)	(表 3. 8)
	PC鋼線より線 (工場組立)	—		
	複合PC鋼線より線束	(表 3. 6)	f < 400kN	
	PC鋼棒		400 ≤ f < 1, 300kN	
簡易防食	PC鋼線より線	(表 3. 6)	(表 3. 7)	
	PC鋼線より線 (工場組立)	(表 3. 6)		
	PC鋼棒	(表 3. 6)	f < 400kN	
			400 ≤ f < 1, 300kN	

(注) [略]

表 3. 6 削孔長 [略]

表 3. 7 設計荷重 [略]

表 3. 8 頭部処理の有無 [略]

(2) 代表機材規格

[略]

表 3. 9 アンカー鋼材加工・組立・挿入・緊張・定着・頭部処理（アンカー） 代表機材規格一覧 [略]

3-3 グラウト注入（アンカー）

(1) [略]

(2) 代表機材規格

[略]

表 3. 10 グラウト注入（アンカー） 代表機材規格一覧 [略]

3-4 ボーリングマシン移設（アンカー）

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 11 ボーリングマシン移設（アンカー） 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 25t 吊	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	土木一般世話役	
	R3	特殊作業員	
	R4	—	
材料	Z1	—	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	

市場単価	S	-	
------	---	---	--

3-5 足場（アンカー）

(1) [略]

(2) 代表機材規格
[略]

表 3. 11 足場（アンカー） 代表機材規格一覧

項 目		代表機材規格	備 考
機械	K1	ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 25t 吊	賃料
	K2	-	
	K3	-	
労務	R1	とび工	
	R2	土木一般世話役	
	R3	普通作業員	
	R4	-	
材料	Z1	-	
	Z2	-	
	Z3	-	
	Z4	-	
市場単価	S	-	

3-6 [略]

市場単価	S	-	
------	---	---	--

3-5 足場（アンカー）

(1) [略]

(2) 代表機材規格
[略]

表 3. 12 足場（アンカー） 代表機材規格一覧

項 目		代表機材規格	備 考
機械	K1	ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 25t 吊	賃料
	K2	-	
	K3	-	
労務	R1	とび工	
	R2	土木一般世話役	
	R3	普通作業員	
	R4	-	
材料	Z1	-	
	Z2	-	
	Z3	-	
	Z4	-	
市場単価	S	-	

3-6 [略]

3. コンクリート工

① [略]

② コンクリート工

1. ～3. [略]

4. 施工パッケージ

4-1 コンクリート

(1) 条件区分

[略]

表 4. 1 コンクリート 積算条件区分一覧 (積算単位：m³) [略]

(注) 1. ～3. [略]

4. 無筋・鉄筋構造物コンクリートポンプ車打設において、コンクリートポンプ車から作業範囲 30mを超える場合は、超えた部分について圧送管延長距離を積算条件区分から選択する。この場合、圧送管の日々組立・撤去費用 及び圧送管の損料を含む。なお、圧送管の固定足場（受枠）を必要とする場合は、別途計上する。

5. ～8. [略]

表 4. 3 コンクリート規格 [略]

表 4. 4 打設高さ、水平打設距離 [略]

(2) [略]

5. ・6. [略]

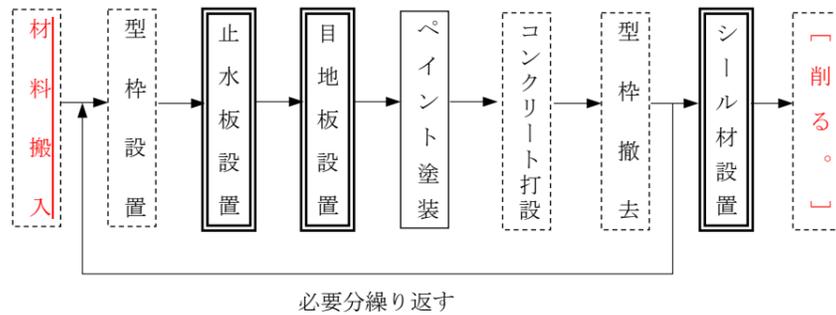
③ [略]

④ コンクリート継目工

1. [略]

2. 施工概要

[略]



(注) 1. ～3. [略]

3. ～6. [略]

3. コンクリート工

① [略]

② コンクリート工

1. ～3. [略]

4. 施工パッケージ

4-1 コンクリート

(1) 条件区分

[略]

表 4. 1 コンクリート 積算条件区分一覧 (積算単位：m³) [略]

(注) 1. ～3. [略]

4. 無筋・鉄筋構造物コンクリートポンプ車打設において、コンクリートポンプ車から作業範囲 30mを超える場合は、超えた部分について圧送管延長距離を積算条件区分から選択する。この場合、圧送管の日々組立・撤去費用を含む。なお、圧送管の固定足場（受枠）を必要とする場合は、別途計上する。

5. ～8. [略]

表 4. 3 コンクリート規格 [略]

表 4. 4 打設高さ、水平打設距離 [略]

(2) [略]

5. ・6. [略]

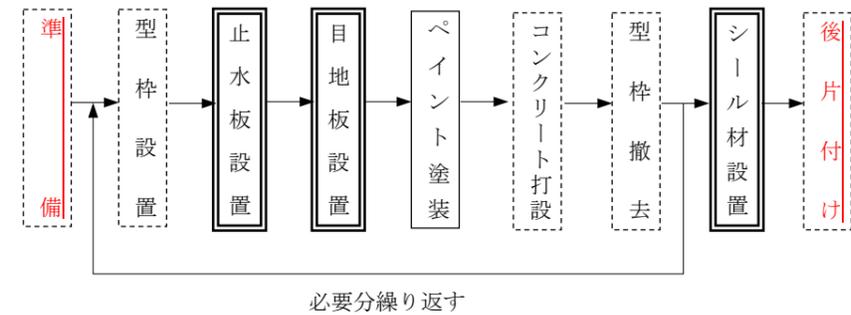
③ [略]

④ コンクリート継目工

1. [略]

2. 施工概要

[略]



(注) 1. ～3. [略]

3. ～6. [略]

5. フリューム類据付工

① コンクリート分水槽据付

1. ・ 2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1 コンクリート分水槽

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3. 1 コンクリート分水槽 積算条件区分一覧 [略]

(注) 1. 上表は、コンクリート分水槽の設置（蓋版を含む）、基礎材、敷砂又は敷モルタル、運搬距離 30m程度までの現場内小運搬等、その施工に必要なすべての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。
ただし、分水槽（材料費）、底部コンクリート打設は含まない。
2. ～7. [略]

表 3. 2 製品質量 [略]

(2) [略]

3-2 [略]

② ボックスカルバート機械据付

1. ・ 2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1 ボックスカルバート

(1) [略]

(2) 代表機労材規格
[略]

表 3. 4 ボックスカルバート 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格	備考
機械	K1 ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・低騒音型・排出ガス対策型 (2011年規制)] 25 t 吊	・ 賃料 ・ 内空高 2.5m以下の場合
	K2 ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・低騒音型・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 50 t 吊	・ 賃料 ・ 内空高 2.5m超の場合
	K3 —	
労務	R1 普通作業員	
	R2 土木一般世話役	
	R3 特殊作業員	
	R4 —	
材料	ボックスカルバート RC B1500×H1500×L1000 T-25 土被り 0.2～3.0m	作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が 1.0 m/個で、内空幅・内空高が 1.25m<B≤2.5m、1.25m≤H≤2.5mの場合
	ボックスカルバート RC B3000×H2000×L1000 T-25 土被り 0.2～3.0m	作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が 1.0 m/個で、内空幅・内空高が 2.5m<B≤3.75m、1.25m<H≤2.5mの場合
	ボックスカルバート RC B1500×H1000×	作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が1.5

5. フリューム類据付工

① コンクリート分水槽据付

1. ・ 2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1 コンクリート分水槽

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3. 1 コンクリート分水槽 積算条件区分一覧 [略]

(注) 1. 上表は、コンクリート分水槽の設置（蓋版を含む）、基礎材、敷砂又は敷モルタル、運搬距離 30m程度までの現場内小運搬等、その施工に必要なすべての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。
ただし、分水槽（材料費）は含まない。
2. ～7. [略]

表 3. 2 製品質量 [略]

(2) [略]

3-2 [略]

② ボックスカルバート機械据付

1. ・ 2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1 ボックスカルバート

(1) [略]

(2) 代表機労材規格
[略]

表 3. 4 ボックスカルバート 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格	備考
機械	K1 ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・低騒音型・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 25 t 吊	・ 賃料 ・ 内空高 2.5m以下の場合
	K2 ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・低騒音型・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 50 t 吊	・ 賃料 ・ 内空高 2.5m超の場合
	K3 —	
労務	R1 普通作業員	
	R2 土木一般世話役	
	R3 特殊作業員	
	R4 —	
材料	ボックスカルバート RC B1500×H1500×L1000 T-25 土被り 0.2～3.0m	作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が 1.0 m/個で、内空幅・内空高が 1.25m<B≤2.5m、1.25m≤H≤2.5mの場合
	ボックスカルバート RC B3000×H2000×L1000 T-25 土被り 0.2～3.0m	作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が 1.0 m/個で、内空幅・内空高が 2.5m<B≤3.75m、1.25m<H≤2.5mの場合
	ボックスカルバート RC B1500×H1000×	作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が1.5

		L1500 T-25 土被り 0.2~3.0m	m/個で、内空幅・内空高が1.25m<B≤2.5m、0m<H≤1.25mの場合
		ボックスカルバート RC B1500×H1500×L1500 T-25 土被り 0.2~3.0m	作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が1.5m/個で、内空幅・内空高が1.25m<B≤2.5m、1.25m<H≤2.5mの場合
		ボックスカルバート RC B3000×H2000×L1500 T-25 土被り 0.2~3.0m	作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が1.5m/個で、内空幅・内空高が2.5m<B≤3.75m、1.25m≤H≤2.5mの場合
		ボックスカルバート RC B3000×H3000×L1500 T-25 土被り 0.2~3.0m	作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が1.5m/個で、内空幅・内空高が2.5m<B≤3.75m、2.5m<H≤3.75mの場合
		ボックスカルバート RC B600×H600×L2000 T-25 土被り 0.2~3.0m	作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が2.0m/個で、内空幅・内空高が0m<B≤1.25m、0m<H≤1.25mの場合
		ボックスカルバート RC B1500×H1000×L2000 T-25 土被り 0.2~3.0m	作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が2.0m/個で、内空幅・内空高が1.25m<B≤2.5m、0m<H≤1.25mの場合
		ボックスカルバート RC B1000×H1500×L2000 T-25 土被り 0.2~3.0m	作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が2.0m/個で、内空幅・内空高が0m<B≤1.25m、1.25m<H≤2.5mの場合
		ボックスカルバート RC B1500×H1500×L2000 T-25 土被り 0.2~3.0m	作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が2.0m/個で、内空幅・内空高が1.25m<B≤2.5m、1.25m<H≤2.5mの場合
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

		L1500 T-25 土被り 0.2~3.0m	m/個で、内空幅・内空高が1.25m<B≤2.5m、0m<H≤1.25mの場合
		ボックスカルバート RC B1500×H1500×L1500 T-25 土被り 0.2~3.0m	作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が1.5m/個で、内空幅・内空高が1.25m<B≤2.5m、1.25m<H≤2.5mの場合
		ボックスカルバート RC B3000×H2000×L1500 T-25 土被り 0.2~3.0m	作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が1.5m/個で、内空幅・内空高が2.5m<B≤3.75m、1.25m≤H≤2.5mの場合
		ボックスカルバート RC B3000×H3000×L1500 T-25 土被り 0.2~3.0m	作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が1.5m/個で、内空幅・内空高が2.5m<B≤3.75m、2.5m<H≤3.75mの場合
		ボックスカルバート RC B600×H600×L2000 T-25 土被り 0.2~3.0m	作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が2.0m/個で、内空幅・内空高が0m<B≤1.25m、0m<H≤1.25mの場合
		ボックスカルバート RC B1500×H1000×L2000 T-25 土被り 0.2~3.0m	作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が2.0m/個で、内空幅・内空高が1.25m<B≤2.5m、0m<H≤1.25mの場合
		ボックスカルバート RC B1000×H1500×L2000 T-25 土被り 0.2~3.0m	作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が2.0m/個で、内空幅・内空高が0m<B≤1.25m、1.25m<H≤2.5mの場合
		ボックスカルバート RC B1500×H1500×L2000 T-25 土被り 0.2~3.0m	作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が2.0m/個で、内空幅・内空高が1.25m<B≤2.5m、1.25m<H≤2.5mの場合
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

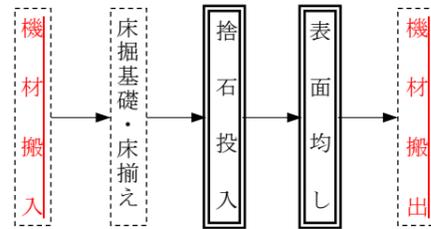
6. 河川・水路工

① [略]

② 捨石工

1. [略]

2. 施工概要
[略]



(注) 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。

③ [略]

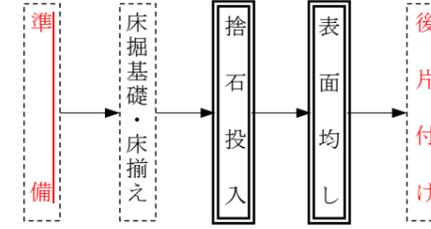
6. 河川・水路工

① [略]

② 捨石工

1. [略]

2. 施工概要
[略]



(注) 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。

③ [略]

8. 道路工

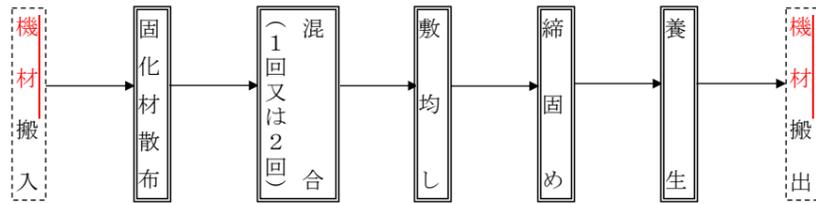
① 安定処理工

1. [略]

2. 施工概要

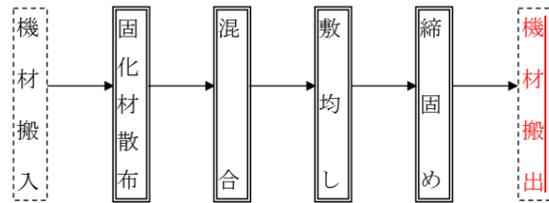
[略]

(1) スタビライザ混合



(注) [略]

(2) バックホウ混合



(注) [略]

3. 施工パッケージ

3-1 安定処理

(1) [略]

(2) 代表機材規格

[略]

表 3. 2 安定処理 代表機材規格一覧

使用機種	施工箇所	項目	代表機材規格	備考
スタビライザ	-	機械	K1 スタビライザ [路床改良用・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 幅 2.0m 深 0.6m	混合深さ 0.6m以下 の場合
			K1 スタビライザ [路床改良用・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 幅 2.0m 深 1.2m	混合深さ 0.6mを超え 1m以下の場合
			K2 バックホウ (クローラ型) [標準型・超低騒音型・クレーン機能付] 排出ガス対策型 (第3次基準値) 山積 0.45m ³ (平積 0.35m ³) 2.9 t 吊	賃料
		K3 ブルドーザ湿地 [低騒音型・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 7 t 級	賃料	
		労務	R1 運転手 (特殊)	
R2 普通作業員				

8. 道路工

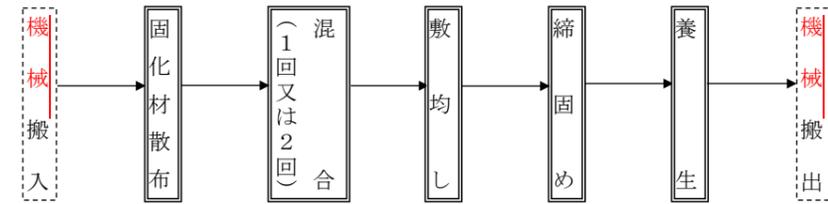
① 安定処理工

1. [略]

2. 施工概要

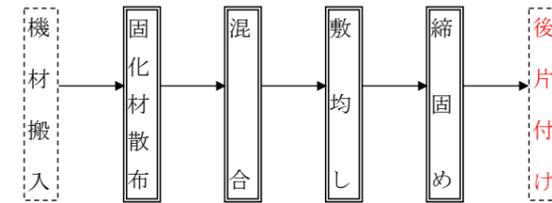
[略]

(1) スタビライザ混合



(注) [略]

(2) バックホウ混合



(注) [略]

3. 施工パッケージ

3-1 安定処理

(1) [略]

(2) 代表機材規格

[略]

表 3. 2 安定処理 代表機材規格一覧

使用機種	施工箇所	項目	代表機材規格	備考
スタビライザ	-	機械	K1 スタビライザ [路床改良用・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 幅 2.0m 深 0.6m	混合深さ 0.6m以下 の場合
			K1 スタビライザ [路床改良用・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 幅 2.0m 深 1.2m	混合深さ 0.6mを超え 1m以下の場合
			K2 バックホウ (クローラ型) [標準型・超低騒音型・クレーン機能付] 排出ガス対策型 (第3次基準値) 山積 0.45m ³ (平積 0.35m ³) 2.9 t 吊	賃料
		K3 ブルドーザ湿地 [低騒音型・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 7 t 級	賃料	
		労務	R1 運転手 (特殊)	
R2 普通作業員				

			R3	土木一般世話役	
			R4	—	
		材料	Z1	セメント系固化材 特殊土用 ・フレコン・1トンパック	
			Z2	軽油 パトロール給油	
			Z3	—	
			Z4	—	
		市場単価	S	—	
バックホウ	路床	機械	K1	バックホウ（クローラ型）[標準型・超低騒音型・クレーン機能付] 排出ガス対策型（2011年規制）山積0.5m ³ （平積0.4m ³ ）2.9t吊	賃料
			K2	タイヤローラ [普通型・超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値）] 質量8～20t	賃料
			K3	振動ローラ（舗装用）[搭乗・コンバインド式・超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値）] 質量3～4t	賃料
		労務	R1	運転手（特殊）	
			R2	普通作業員	
			R3	土木一般世話役	
			R4	—	
		材料	Z1	セメント系固化材 特殊土用 ・フレコン・1トンパック	
			Z2	軽油 パトロール給油	
			Z3	—	
Z4	—				
	市場単価	S	—		
バックホウ	構造物基礎	機械	K1	バックホウ（クローラ型）[標準型・超低騒音型・クレーン機能付] 排出ガス対策型（第3次基準値）山積0.8m ³ （平積0.6m ³ ）2.9t吊	賃料
			K2	振動ローラ（舗装用）[ハンドガイド式・ 低騒音型] 質量 0.6～0.7t	賃料
			K3	—	
		労務	R1	土木一般世話役	
			R2	特殊作業員	
			R3	運転手（特殊）	
			R4	普通作業員	
		材料	Z1	セメント系固化材 特殊土用 ・フレコン・1トンパック	
			Z2	軽油 パトロール給油	
			Z3	—	
Z4	—				
	市場単価	S	—		

(注) [略]

②～⑥ [略]

⑦ 路側工（据付け）

			R3	土木一般世話役	
			R4	—	
		材料	Z1	セメント系固化材 一般軟弱土用 ・フレコン・1トンパック	
			Z2	軽油 パトロール給油	
			Z3	—	
			Z4	—	
		市場単価	S	—	
バックホウ	路床	機械	K1	バックホウ（クローラ型）[標準型・超低騒音型・クレーン機能付] 排出ガス対策型（2011年規制）山積0.5m ³ （平積0.4m ³ ）2.9t吊	賃料
			K2	タイヤローラ [普通型・超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値）] 質量8～20t	賃料
			K3	振動ローラ（舗装用）[搭乗・コンバインド式・超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値）] 質量3～4t	賃料
		労務	R1	運転手（特殊）	
			R2	普通作業員	
			R3	土木一般世話役	
			R4	—	
		材料	Z1	セメント系固化材 一般軟弱土用 ・フレコン・1トンパック	
			Z2	軽油 パトロール給油	
			Z3	—	
Z4	—				
	市場単価	S	—		
バックホウ	構造物基礎	機械	K1	バックホウ（クローラ型）[標準型・超低騒音型・クレーン機能付] 排出ガス対策型（第3次基準値）山積0.8m ³ （平積0.6m ³ ）2.9t吊	賃料
			K2	振動ローラ（舗装用）[ハンドガイド式] 質量 0.8～1.1t	賃料
			K3	—	
		労務	R1	土木一般世話役	
			R2	特殊作業員	
			R3	運転手（特殊）	
			R4	普通作業員	
		材料	Z1	セメント系固化材 一般軟弱土用 ・フレコン・1トンパック	
			Z2	軽油 パトロール給油	
			Z3	—	
Z4	—				
	市場単価	S	—		

(注) [略]

②～⑥ [略]

⑦ 路側工（据付け）

1. 適用範囲

[略]

1-1 [略]

1-2 適用できない範囲

1-2-1 歩車道境界ブロック

(1) [略]

(2) ブロック規格が「600mm 以下、50kg 以上 100kg 未満」または「600mm 超 1000mm 以下、50kg 以上 150kg 未満」、かつ作業半径 3 m を超える場合

(3) ブロック規格が「600mm 超 1000mm 以下、50kg 以上 150kg 未満」、かつ作業半径 5 m を超える場合

1-2-2 地先境界ブロック

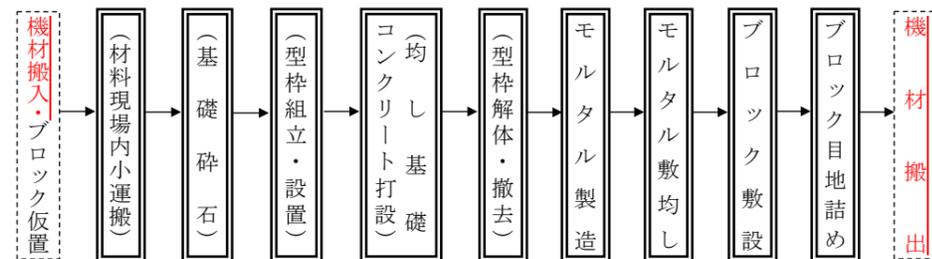
(1) 製品長が 2 m を超える場合

(2) ブロック規格が「600mm 以下、50kg 以上 100kg 未満」または「600mm 超 1000mm 以下、50kg 以上 150kg 未満」、かつ作業半径 3 m を超える場合

(3) ブロック規格が「600mm 超 1000mm 以下、50kg 以上 150kg 未満」、かつ作業半径 5 m を超える場合

2. 施工概要

[略]



(注) [略]

3. 施工パッケージ

3-1 歩車道境界ブロック

(1) [略]

(2) 代表機材規格

[略]

表 3.5 歩車道境界ブロック 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格	備考
機械	K1 小型バックホウ (クローラ型) [後方超小旋回型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 山積 0.09m ³ (平積 0.07m ³) 吊能力 0.9t	・賃料 ・ブロック規格②③⑤⑥の場合
	バックホウ (クローラ型) [超小旋回型・クレーン機能付・排出ガス対策型 (2014年規制)] 山積 0.28m ³ (平積 0.2m ³) 吊能力 1.7t	・賃料 ・ブロック規格⑦の場合
	K2 バックホウ (クローラ型) [標準型・排出ガス対策型 (2014年規制)] 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	・賃料 ・基礎砕石有りの場合
K3	—	
労務	R1 普通作業員	
	R2 特殊作業員	
	R3 土木一般世話役	
	R4 型わく工	・均し基礎コンクリート有りの場合
	運転手 (特殊)	・基礎砕石有り、かつ均し基礎コンクリート無しの場合 ・ブロック規格⑦で基礎

1. 適用範囲

[略]

1-1 [略]

1-2 適用できない範囲

1-2-1 歩車道境界ブロック

(1) [略]

[新設]

[新設]

1-2-2 地先境界ブロック

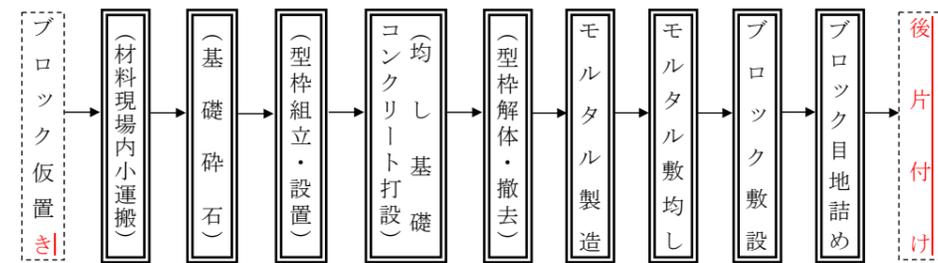
(1) 製品長が 2 m を超える場合

[新設]

[新設]

2. 施工概要

[略]



(注) [略]

3. 施工パッケージ

3-1 歩車道境界ブロック

(1) [略]

(2) 代表機材規格

[略]

表 3.5 歩車道境界ブロック 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格	備考
機械	K1 小型バックホウ (クローラ型) [後方超小旋回型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 山積 0.09m ³ (平積 0.07m ³) 吊能力 0.9t	・賃料 ・ブロック規格②③⑤⑥の場合
	バックホウ (クローラ型) [標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 山積 0.45m ³ (平積 0.35m ³) 吊能力 2.9t	・賃料 ・ブロック規格⑦の場合
	K2 バックホウ (クローラ型) [標準型・排出ガス対策型 (2014年規制)] 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	・賃料 ・基礎砕石有りの場合
K3	—	
労務	R1 普通作業員	
	R2 特殊作業員	
	R3 土木一般世話役	
	R4 型わく工	・均し基礎コンクリート有りの場合
	運転手 (特殊)	・基礎砕石有り、かつ均し基礎コンクリート無しの場合 ・ブロック規格⑦で基礎

			砕石無し、かつ均し基礎 コンクリート無しの場合
材料	Z1	歩車道境界ブロックA種(150/170×200×600)	設置の場合
		歩車道境界ブロックB種(180/205×250×600)	
		歩車道境界ブロックC種(180/210×300×600)	
	Z2	生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C60%	均し基礎コンクリート有 りの場合
	Z3	再生クラッシュラン RC-40	基礎砕石有りの場合
Z4	軽油 パトロール給油	ブロック規格①④、かつ 基礎砕石無しの場合を除 く	
市場単価	S	—	

※ [略]

3-2 地先境界ブロック

(1) [略]

(2) 代表機材規格
[略]

表 3. 8 地先境界ブロック 代表機材規格一覧

項 目	代表機材規格		備 考
機械	K1	小型バックホウ(クローラ型)[後方超小旋回型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第3次基準値)] 山積0.09m ³ (平積0.07m ³)吊能力0.9t	・賃料 ・ブロック規格⑤⑥の場合
		バックホウ(クローラ型)[超小旋回型・クレーン機能付・排出ガス対策型(2014年規制)]山積0.28m ³ (平積0.20m ³)吊能力1.7t	・賃料 ・ブロック規格⑦の場合
	K2	バックホウ(クローラ型)[標準型・排出ガス対策型(2014年規制)]山積0.8m ³ (平積0.6m ³)	・賃料 ・基礎砕石有りの場合
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	特殊作業員	
	R3	土木一般世話役	
	R4	型わく工	・均し基礎コンクリート有 りの場合
運転手(特殊)		・基礎砕石有り、かつ均し基 礎コンクリート無しの場合 ・ブロック規格⑦で基礎砕 石無し、かつ均し基礎コン クリート無しの場合	
材料	Z1	地先境界ブロックA種(120×120×600)	設置の場合
		地先境界ブロックB種(150×120×600)	
		地先境界ブロックC種(150×150×600)	
	Z2	生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C60%	均し基礎コンクリート有 りの場合
	Z3	再生クラッシュラン RC-40	基礎砕石有りの場合
Z4	軽油 パトロール給油	ブロック規格①②③④、かつ 基礎砕石無しの場合を除く	
市場単価	S	—	

※ [略]

⑧ 路側工(取外し)

1. [略]

2. 施工概要
[略]

			砕石無し、かつ均し基礎 コンクリート無しの場合
材料	Z1	歩車道境界ブロックA種(150/170×200×600)	設置の場合
		歩車道境界ブロックB種(180/205×250×600)	
		歩車道境界ブロックC種(180/210×300×600)	
	Z2	生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C60%	均し基礎コンクリート有 りの場合
	Z3	再生クラッシュラン RC-40	基礎砕石有りの場合
Z4	軽油 パトロール給油	ブロック規格①④、かつ 基礎砕石無しの場合を除 く	
市場単価	S	—	

※ [略]

3-2 地先境界ブロック

(1) [略]

(2) 代表機材規格
[略]

表 3. 8 地先境界ブロック 代表機材規格一覧

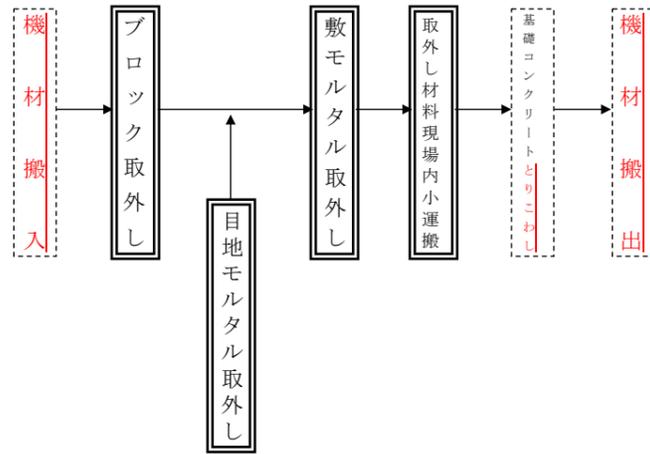
項 目	代表機材規格		備 考
機械	K1	小型バックホウ(クローラ型)[後方超小旋回型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第3次基準値)] 山積0.09m ³ (平積0.07m ³)吊能力0.9t	・賃料 ・ブロック規格⑤⑥の場合
		バックホウ(クローラ型)[標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第2次基準値)]山積0.45m ³ (平積0.35m ³)吊能力2.9t	・賃料 ・ブロック規格⑦の場合
	K2	バックホウ(クローラ型)[標準型・排出ガス対策型(2014年規制)]山積0.8m ³ (平積0.6m ³)	・賃料 ・基礎砕石有りの場合
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	特殊作業員	
	R3	土木一般世話役	
	R4	型わく工	・均し基礎コンクリート有 りの場合
運転手(特殊)		・基礎砕石有り、かつ均し基 礎コンクリート無しの場合 ・ブロック規格⑦で基礎砕 石無し、かつ均し基礎コン クリート無しの場合	
材料	Z1	地先境界ブロックA種(120×120×600)	設置の場合
		地先境界ブロックB種(150×120×600)	
		地先境界ブロックC種(150×150×600)	
	Z2	生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C60%	均し基礎コンクリート有 りの場合
	Z3	再生クラッシュラン RC-40	基礎砕石有りの場合
Z4	軽油 パトロール給油	ブロック規格①②③④、かつ 基礎砕石無しの場合を除く	
市場単価	S	—	

※ [略]

⑧ 路側工(取外し)

1. [略]

2. 施工概要
[略]



(注) [略]

3. 施工パッケージ

3-1 歩車道境界ブロック撤去、地先境界ブロック撤去

(1) 条件区分
[略]

表 3. 1 歩車道境界ブロック撤去、地先境界ブロック撤去 積算条件区分一覧 [略]

(注) 1. 上表は、プレキャスト製品による歩車道境界ブロック、または地先境界ブロックの撤去、敷モルタル・目地モルタルの取外し、集積、現場内小運搬、ダンプトラック4t積、パール、スコップ、一輪車、電動ハンマドリル、電力に関する経費等、その施工に必要なすべての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。

2.・3. [略]

(2) [略]

⑨ 防雪柵設置工

1. [略]

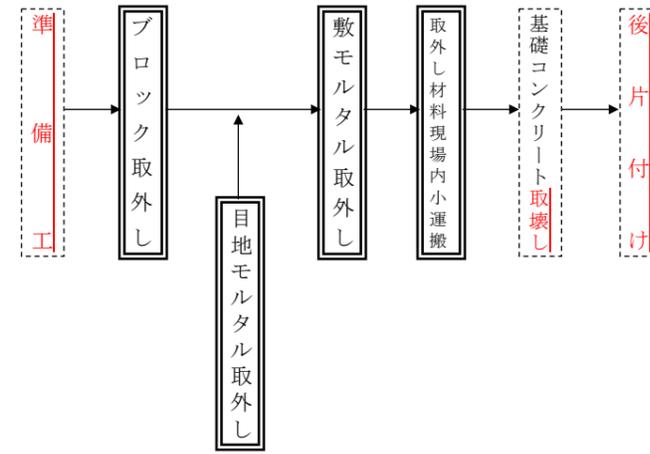
2. 防雪柵現地張出し・収納工

2-1 [略]

[削る。]

2-2 施工パッケージ

2-2-1 防雪柵現地張出し・収納



(注) [略]

3. 施工パッケージ

3-1 歩車道境界ブロック撤去、地先境界ブロック撤去

(1) 条件区分
[略]

表 3. 1 歩車道境界ブロック撤去、地先境界ブロック撤去 積算条件区分一覧 [略]

(注) 1. 上表は、プレキャスト製品による歩車道境界ブロック、または地先境界ブロックの撤去、敷モルタル・目地モルタルの取外し、集積、現場内小運搬等、その施工に必要なすべての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。

2.・3. [略]

(2) [略]

⑨ 防雪柵設置工

1. [略]

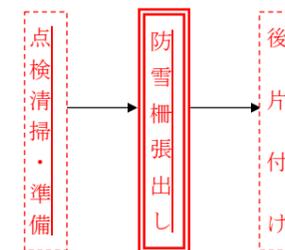
2. 防雪柵現地張出し・収納工

2-1 [略]

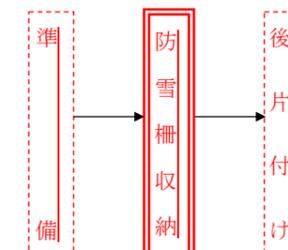
2-2 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。

張出し作業



収納作業



(注) 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。

2-3 施工パッケージ

2-3-1 防雪柵現地張出し・収納

(1) 条件区分
[略]

表 2.1 防雪柵現地張出し・収納 積算条件区分一覧 [略]

(2) 代表機労材規格
[略]

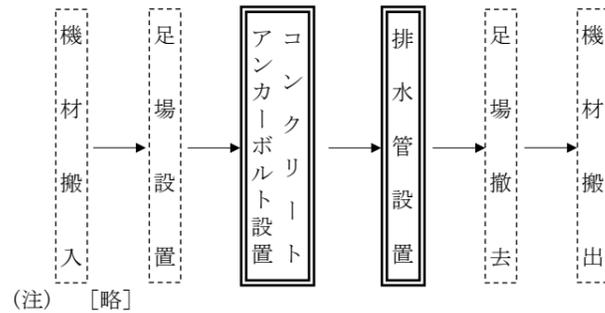
表 2.2 防雪柵現地張出し・収納 代表機労材規格一覧 [略]

2-3 参考図
(1)～(3) [略]

⑩ 橋梁排水管設置工

1. [略]

2. 施工概要
[略]



3. [略]

⑪ 橋梁用高欄

1. 適用範囲

橋梁用高欄（橋梁に設置する高欄（歩行者用自転車柵）、車両用防護柵及び高欄兼用車両用防護柵）を設置する場合、橋梁用高欄の材質が鋼製・ダクタイル製・アルミ製の場合、基礎方式がベースプレート式の場合に適用する。

ただし、橋梁用ガードレール高欄及び側道橋用高欄を設置する場合、既設地覆を削孔してアンカーを設置する場合、再利用設置の場合は適用できない。

2. 施工パッケージ

2-1 橋梁用高欄

(1) 条件区分

条件区分は、表 2.1 を標準とする。

表 2.1 橋梁用高欄 積算条件区分一覧（積算単位：m）

設置方式
組立式
一体式

(注) 1. 現場内小運搬、高欄組立工具類等、橋梁用高欄の設置に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。ただし、一体式材料費は含まない。

2. 組立式とは、支柱と横枠部を分割出来る市販品、一体式とは、形鋼等による工場製作品をいう。

3. 一体式の場合の材料費は、m 当たり単価を別途計上する。

4. 地覆にかかわる鉄筋組立、コンクリート工及び型枠の設置・撤去は含まない。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

(1) 条件区分
[略]

表 3.1 防雪柵現地張出し・収納 積算条件区分一覧 [略]

(2) 代表機労材規格
[略]

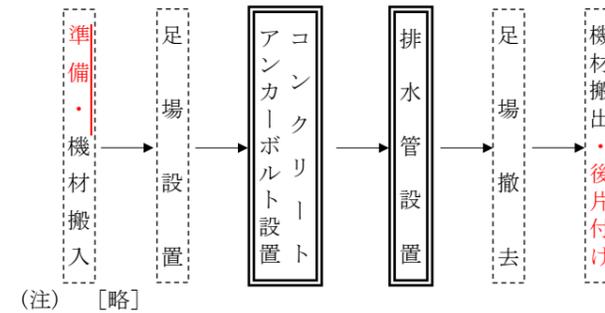
表 3.2 防雪柵現地張出し・収納 代表機労材規格一覧 [略]

2-4 参考図
(1)～(3) [略]

⑩ 橋梁排水管設置工

1. [略]

2. 施工概要
[略]



3. [略]

[新設]

表 2.2 橋梁用高欄 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格	備考
機械	K1 トラック〔クレーン装置付〕 ベーストラック 4～4.5 t 積 吊能力 2.9 t	一体式の場合
	K2 ー	
	K3 ー	
労務	R1 普通作業員	
	R2 土木一般世話役	
	R3 運転手(特殊)	一体式の場合
	R4 ー	
材料	Z1 高欄(鋼製) B種 丸・縦棧型 ビーム数3本 高さ1,000mm スパン2.0m めっき 軽油 バトロール給油	組立式の場合 一体式の場合
	Z2 ー	
	Z3 ー	
	Z4 ー	
	市場単価	S ー

2-2 橋梁用高欄一体式(材料費)

1) 条件区分

橋梁用高欄一体式(材料費)における積算条件区分はない。

積算単位は、mとする。

⑫ 鋼橋床版工

1. 適用範囲

本資料は、鋼橋床版工のうち、型枠(鋼橋床版)、養生(鋼橋床版)に適用するものとする。

2. 施工パッケージ

2-1 型枠(鋼橋床版)

(1) 条件区分

条件区分は、表 2. 1 を標準とする。

表 2.1 型枠(鋼橋床版) 積算条件区分一覧 (積算単位: m²)

型枠の補正係数(K)	吊金具取付(材料費含む)
補正なし	工場
	現場
0.05 以下	工場
	現場
0.06 以上 0.10 以下	工場
	現場

(注) 1. 上表は、型枠の製作、設置、撤去及びケレン、はく離剤塗布の他、セパレータ、フォームタイ、パイプサポート、吊チェーン、ターンバックル、パイプ、鋼製ビームの経費及び現場で吊金具(ボルトを含む)取付けを行う場合に要する費用等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。

2. 型枠用合板の標準使用量は、70.5 枚/100m²とする。ただし、900×1800mm/枚とする。

3. 正割材の標準使用量は、2.6 m³/100m²とする。

4. 型枠用合板、正割材の償却率を考慮している。(標準償却率 33%)

5. 吊金具取付で工場を選択する場合は、吊金具取付の費用(材料費含む)は計上されない。

6. 型枠材料は合板製とし、鋼製ビームによる吊金具支保とする。

7. 橋梁形式による補正係数

$$\text{補正係数} = K$$

$$K = K_1 + K_2 \quad K_1, K_2 : \text{橋梁形式による補正係数}$$

表 2.2 補正係数

橋 梁 形 式	補 正 係 数
---------	---------

[新設]

K_1	斜橋(斜角 $\alpha < 75^\circ$)	+0.05
K_2	曲線橋(曲線半径 $R < 500m$)	+0.05

(1) 斜橋による補正

橋端部が斜である橋梁(平面的に斜である橋梁(図-2.1 参照))では斜角(α)によるものとし、一番小さい斜角で対処する。
また、橋端部で斜角が一方の場合のみでも補正の対象とする。

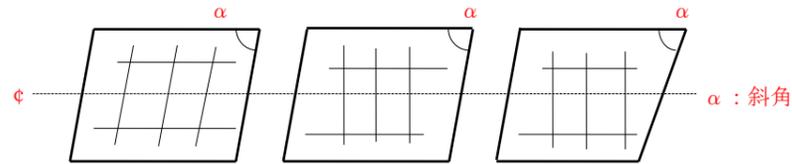


図 2.1 斜橋の例

(2) 曲線橋による補正

曲線半径(R)は、道路中心線による。

(3) 補正係数がスパンによって異なる場合は、スパンごとの補正係数を平均する。なお、補正係数は小数点以下第3位を四捨五入する。

$$\text{平均補正係数} = \frac{L_1 \times K_1 + L_2 \times K_2 + \dots + L_n \times K_n}{L_1 + L_2 + \dots + L_n}$$

L : 支間長、 K : 補正係数、 n : 径間数

8. 型枠面積

橋梁床版工の型枠の面積数量は、図 2.2 のとおり計上する。

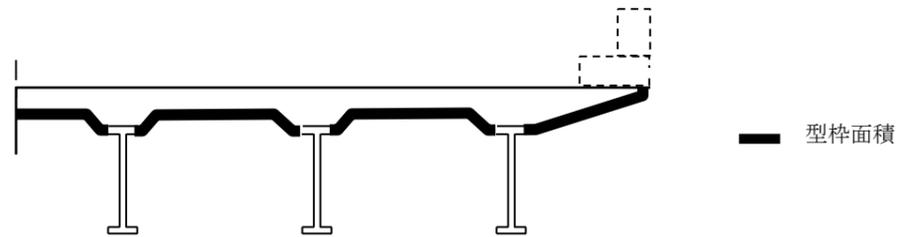


図 2.2 標準床版断面

9. 仮設支保材供用日数

仮設支保材(鋼製ビーム等)の供用日数は42日を標準とする。

10. 地覆型枠が必要な場合は、別途計上する。

11. 足場工が必要な場合は、別途計上する。

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 2.3 型枠(鋼橋床版) 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	$K1$	—	
	$K2$	—	
	$K3$	—	
労務	$R1$	型わく工	
	$R2$	普通作業員	
	$R3$	土木一般世話役	
	$R4$	—	
材料	$Z1$	正割材 杉 4m×6cm×6cm 特1等	
	$Z2$	コンクリート型枠用合板 JAS 規格板面品質 B-C 12×900×1,800	
	$Z3$	—	

	Z4	—	
市場単価	S	—	

2-2 養生（鋼橋床版）

(1) 条件区分

養生（鋼橋床版）における積算条件区分はない。

積算単位は、m²とする。

- (注) 1. 鋼橋床版工における養生、ポンプ運転経費の他、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。
2. 養生面積は床版面積とする。
3. 養生工は、養生履材の被覆、水散布養生程度のものとし、電気養生等の特別な養生を必要とする場合は別途計上する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 2.4 養生（鋼橋床版）代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	—	
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	—	
	R3	—	
	R4	—	
材料	Z1	—	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

2-3 養生マット（材料費）

(1) 条件区分

養生マット（材料費）における積算条件区分はない。

積算単位は、m²とする。

- (注) 1. 養生マットの標準使用量は、110m²/100m²（養生面積）とする。
2. 養生マットの償却率を考慮している。（標準償却率 25%）

9. 地すべり防止工

① 集排水ボーリング工（ロータリーパーカッション式）

1. ・ 2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1 ボーリング

(1) [略]

(2) 代表機材規格
[略]

表 3.4 ボーリング 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	ボーリングマシン[ロータリーパーカッション式・スキッド型] 55kW 級	
	K2	発動発電機 [ディーゼルエンジン駆動・ 超低騒音型 ・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 125kVA	賃料
	K3	グラウトポンプ [二筒複動ピストン式] 吐出力 200L/min	
労務	R1	普通作業員	
	R2	土木一般世話役	
	R3	特殊作業員	
	R4	—	
材料	Z1	ドリルパイプφ90mm 用(1.0m)	呼び径がφ90mm で集水井内の場合
		ドリルパイプφ90mm 用(1.5m)	呼び径がφ90mm で地表の場合
		ドリルパイプφ115mm 用(1.0m)	呼び径がφ115mm で集水井内の場合
		ドリルパイプφ115mm 用(1.5m)	呼び径がφ115mm で地表の場合
		ドリルパイプφ135mm 用(1.0m)	呼び径がφ135mm で集水井内の場合
		ドリルパイプφ135mm 用(1.5m)	呼び径がφ135mm で地表の場合
	Z2	インナーロッドφ90mm 用(1.0m)	呼び径がφ90mm で集水井内の場合
		インナーロッドφ90mm 用(1.5m)	呼び径がφ90mm で地表の場合
		インナーロッドφ115mm 用(1.0m)	呼び径がφ115mm で集水井内の場合
		インナーロッドφ115mm 用(1.5m)	呼び径がφ115mm で地表の場合
		インナーロッドφ135mm 用(1.0m)	呼び径がφ135mm で集水井内の場合
		インナーロッドφ135mm 用(1.5m)	呼び径がφ135mm で地表の場合
	Z3	リングビットφ90mm 用	呼び径がφ90mm の場合
		リングビットφ115mm 用	呼び径がφ115mm の場合
		リングビットφ135mm 用	呼び径がφ135mm の場合

9. 地すべり防止工

① 集排水ボーリング工（ロータリーパーカッション式）

1. ・ 2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1 ボーリング

(1) [略]

(2) 代表機材規格
[略]

表 3.4 ボーリング 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	ボーリングマシン[ロータリーパーカッション式・スキッド型] 55kW 級	
	K2	発動発電機 [ディーゼルエンジン駆動] 排出ガス対策型 (第2次基準値) 125kVA	賃料
	K3	グラウトポンプ [横型二連 複動ピストン式] 吐出力 200L/min	
労務	R1	普通作業員	
	R2	土木一般世話役	
	R3	特殊作業員	
	R4	—	
材料	Z1	ドリルパイプφ90mm 用(1.0m)	呼び径がφ90mm で集水井内の場合
		ドリルパイプφ90mm 用(1.5m)	呼び径がφ90mm で地表の場合
		ドリルパイプφ115mm 用(1.0m)	呼び径がφ115mm で集水井内の場合
		ドリルパイプφ115mm 用(1.5m)	呼び径がφ115mm で地表の場合
		ドリルパイプφ135mm 用(1.0m)	呼び径がφ135mm で集水井内の場合
		ドリルパイプφ135mm 用(1.5m)	呼び径がφ135mm で地表の場合
	Z2	インナーロッドφ90mm 用(1.0m)	呼び径がφ90mm で集水井内の場合
		インナーロッドφ90mm 用(1.5m)	呼び径がφ90mm で地表の場合
		インナーロッドφ115mm 用(1.0m)	呼び径がφ115mm で集水井内の場合
		インナーロッドφ115mm 用(1.5m)	呼び径がφ115mm で地表の場合
		インナーロッドφ135mm 用(1.0m)	呼び径がφ135mm で集水井内の場合
		インナーロッドφ135mm 用(1.5m)	呼び径がφ135mm で地表の場合
	Z3	リングビットφ90mm 用	呼び径がφ90mm の場合
		リングビットφ115mm 用	呼び径がφ115mm の場合
		リングビットφ135mm 用	呼び径がφ135mm の場合

	Z4	軽油 パトロール給油	
市場単価	S	—	

3-2~3-4 [略]

	Z4	軽油 パトロール給油	
市場単価	S	—	

3-2~3-4 [略]

10. その他

① 作業日当り標準作業量

1. [略]

2. 作業日当り標準作業量

工種名	設定内容			
土工	①～③ [略]			
	④路体(築堤)盛土・埋戻			
	施工幅員	施工数量	障害の有無	作業日当り標準作業量
	2.5m以上 4.0m未満	—	—	86m ³ /日
	4.0m以上	20,000m ³ 未満	無し	350m ³ /日
			有り	180m ³ /日
		20,000m ³ 以上	無し	540m ³ /日
			有り	310m ³ /日
	(注) 1.・2. [略]			
	⑤路床盛土			
施工幅員	施工数量	障害の有無	作業日当り標準作業量	
2.5m以上 4.0m未満	—	—	78m ³ /日	
4.0m以上	20,000m ³ 未満	無し	260m ³ /日	
		有り	140m ³ /日	
	20,000m ³ 以上	無し	420m ³ /日	
		有り	140m ³ /日	
(注) 1.・2. [略]				
⑥～⑧ [略]				
作業土工	①～④ [略]			
法面整形工	① [略]			
舗装版切断工	①舗装版切断			
	(1) アスファルト舗装版			
	アスファルト舗装版厚		作業日当り標準作業量	
	15cm以下		203m/日	
	15cmを超え30cm以下		127m/日	
	30cmを超え40cm以下		80m/日	
	(2) コンクリート舗装版、コンクリート+アスファルト(カバー)舗装版			
	コンクリート舗装版厚		作業日当り標準作業量	
	15cm以下		129m/日	
	15cmを超え30cm以下		67m/日	
(注) [略]				
舗装版破碎工	①舗装版破碎			
	(1) アスファルト舗装版			
	障害等	騒音振動	舗装版厚	作業日当り標準作業量

10. その他

① 作業日当り標準作業量

1. [略]

2. 作業日当り標準作業量

工種名	設定内容			
土工	①～③ [略]			
	④路体(築堤)盛土・埋戻			
	施工幅員	施工数量	障害の有無	作業日当り標準作業量
	2.5m以上 4.0m未満	—	—	86m ³ /日
	4.0m以上	10,000m ³ 未満	無し	370m ³ /日
			有り	190m ³ /日
		10,000m ³ 以上	無し	540m ³ /日
			有り	310m ³ /日
	(注) 1.・2. [略]			
	⑤路床盛土			
施工幅員	施工数量	障害の有無	作業日当り標準作業量	
2.5m以上 4.0m未満	—	—	78m ³ /日	
4.0m以上	10,000m ³ 未満	無し	280m ³ /日	
		有り	140m ³ /日	
	10,000m ³ 以上	無し	420m ³ /日	
		有り	140m ³ /日	
(注) 1.・2. [略]				
⑥～⑧ [略]				
作業土工	①～④ [略]			
法面整形工	① [略]			
舗装版切断工	①舗装版切断			
	(1) アスファルト舗装版			
	アスファルト舗装版厚		作業日当り標準作業量	
	15cm以下		230m/日	
	15cmを超え30cm以下		130m/日	
	30cmを超え40cm以下		80m/日	
	(2) コンクリート舗装版、コンクリート+アスファルト(カバー)舗装版			
	コンクリート舗装版厚		作業日当り標準作業量	
	15cm以下		150m/日	
	15cmを超え30cm以下		70m/日	
(注) [略]				
舗装版破碎工	①舗装版破碎			
	(1) アスファルト舗装版			
	障害等	騒音振動	舗装版厚	作業日当り標準作業量

の有無	対策		直接掘削・積込作業	舗装版破碎作業	掘削・積込作業
無し	不要	15cm以下	484m ² /日	—	—
		15cmを超え40cm以下	—	288m ² /日	354m ² /日
	必要	15cm以下	—	260m ² /日	470m ² /日
		15cmを超え35cm以下	—	180m ² /日	354m ² /日

(2) コンクリート舗装版

騒音振動対策	舗装版厚	作業日当り標準作業量		
		直接掘削・積込作業	舗装版破碎作業	掘削・積込作業
不要	15cm以下	484m ² /日	—	—
	15cmを超え35cm以下	—	230m ² /日	242m ² /日
必要	15cm以下	—	190m ² /日	320m ² /日
	15cmを超え35cm以下	—	150m ² /日	242m ² /日

(3) [略]

② [略]

の有無	対策		直接掘削・積込作業	舗装版破碎作業	掘削・積込作業
無し	不要	15cm以下	510m ² /日	—	—
		15cmを超え40cm以下	—	310m ² /日	370m ² /日
	必要	15cm以下	—	260m ² /日	490m ² /日
		15cmを超え35cm以下	—	180m ² /日	370m ² /日

(2) コンクリート舗装版

騒音振動対策	舗装版厚	作業日当り標準作業量		
		直接掘削・積込作業	舗装版破碎作業	掘削・積込作業
不要	15cm以下	510m ² /日	—	—
	15cmを超え35cm以下	—	230m ² /日	260m ² /日
必要	15cm以下	—	190m ² /日	320m ² /日
	15cmを超え35cm以下	—	150m ² /日	260m ² /日

(3) [略]

② [略]

殻運搬

① [略]

かご工

①・② [略]

補強土壁工（帯鋼補強土壁、アンカー補強土壁、ジオテキスタイル補強土壁（二重壁タイプ））

①～④ [略]

補強盛土工

①～③ [略]

プレキャスト擁壁工

① [略]

大型ブロック積（張）工

① [略]

石積（張）工

①～③ [略]

吸出し防止材設置工

① [略]

吹付法面とりこわし工

① [略]

アンカー工（ロータリーパーカッション式）

①削孔（アンカー）

(m/日)

[削る。]	足場の有無	呼び径	作業日当り標準作業量				
			粘性土砂質土	礫質土	玉石混り土	軟岩	硬岩
[削る。]	[削る。]	[削る。]	[削る。]	[削る。]	[削る。]	[削る。]	[削る。]
		[削る。]	[削る。]	[削る。]	[削る。]	[削る。]	[削る。]
		[削る。]	[削る。]	[削る。]	[削る。]	[削る。]	[削る。]
	[削る。]	[削る。]	[削る。]	[削る。]	[削る。]	[削る。]	[削る。]
		[削る。]	[削る。]	[削る。]	[削る。]	[削る。]	[削る。]
		[削る。]	[削る。]	[削る。]	[削る。]	[削る。]	[削る。]
[削る。]	有り	90mm	45	30	21	26	20

殻運搬

① [略]

かご工

①・② [略]

補強土壁工（帯鋼補強土壁、アンカー補強土壁、ジオテキスタイル補強土壁（二重壁タイプ））

①～④ [略]

補強盛土工

①～③ [略]

プレキャスト擁壁工

① [略]

大型ブロック積（張）工

① [略]

石積（張）工

①～③ [略]

吸出し防止材設置工

① [略]

吹付法面とりこわし工

① [略]

アンカー工（ロータリーパーカッション式）

①削孔（アンカー）

(m/日)

方式	足場の有無	呼び径	作業日当り標準作業量				
			粘性土砂質土	礫質土	玉石混り土	軟岩	硬岩
単管	有り (スキッド型)	90mm	48	32	22	—	—
		115mm	33	26	18	—	—
		135mm	26	22	15	—	—
	無し (クローラ型)	90mm	53	36	24	—	—
		115mm	37	29	20	—	—
		135mm	29	24	17	—	—
二重管	有り	90mm	45	30	21	26	20

		(スキッド型)	115mm	28	23	16	20	16	
			135mm	22	18	14	15	13	
			146mm	19	16	12	14	10	
		無し (クローラ型)	90mm	50	33	24	29	22	
			115mm	31	26	18	22	18	
			135mm	24	20	15	17	14	
			146mm	21	18	14	15	11	
		(注)	[略]						
②～⑤	[略]								
基礎・裏込砕石工	①	[略]							
コンクリート工	①	[略]							
型枠工	①	[略]							
コンクリート継目工(目地、止水板設置工)	①～③	[略]							
粉体噴射攪拌(DJM工法)	①～③	[略]							
コンクリート分水槽据付	①	[略]							
ボックスカルバート機械据付	①	<u>ボックスカルバート</u>	[略]						
消波根固めブロック工	①～③	[略]							
捨石工	①	[略]							
多自然型護岸工(木杭打工)	①	[略]							
遠心鉄筋コンクリート管(B型)機械布設	①	[略]							
安定処理工	①	[略]							
	②安定処理(バックホウ)								
		施工箇所	混合深さ	作業日当り標準作業量					
		路床	1m以下	170m ² /日					
		構造物基礎	1m以下	121m ² /日					
			1mを超え2m以下	74m ² /日					
	(注)	1. 固化材散布、混合、敷均し、締固めをすべて含んだ標準施工量である。 2. 上表には、現場内小運搬(固化材の荷卸を含む)が含まれている。							
路盤工	①	[略]							
アスファルト舗装工	①・②	[略]							
マンホール据付	①	[略]							
プレキャストL形側溝	①・②	[略]							
暗渠排水管布設	①・②	[略]							
路側工(据付け)	①	[略]							
路側工(取外し)	①	[略]							
防雪柵設置工	①・②	[略]							
防雪柵現地張出し・収納工	①	[略]							
橋梁排水管設置工	①	[略]							
橋梁用高欄	①	橋梁用高欄							
		設置方式	作業日当り作業量						
		組立式	33m/日						
		一体式	33m/日						

		(スキッド型)	115mm	28	23	16	20	16	
			135mm	22	18	14	15	13	
			146mm	19	16	12	14	10	
		無し (クローラ型)	90mm	50	33	24	29	22	
			115mm	31	26	18	22	18	
			135mm	24	20	15	17	14	
			146mm	21	18	14	15	11	
		(注)	[略]						
②～⑤	[略]								
基礎・裏込砕石工	①	[略]							
コンクリート工	①	[略]							
型枠工	①	[略]							
コンクリート継目工(目地、止水板設置工)	①～③	[略]							
粉体噴射攪拌(DJM工法)	①～③	[略]							
コンクリート分水槽据付	①	[略]							
ボックスカルバート	[新設]	[略]							
消波根固めブロック工	①～③	[略]							
捨石工	①	[略]							
多自然型護岸工(木杭打工)	①	[略]							
遠心鉄筋コンクリート管(B型)機械布設	①	[略]							
安定処理工	①	[略]							
	②安定処理(バックホウ)								
		施工箇所	混合深さ	作業日当り標準作業量					
		路床	1m以下	172m ² /日					
		構造物基礎	1m以下	127m ² /日					
			1mを超え2m以下	74m ² /日					
	(注)	1. 固化材散布、混合、敷均し、締固めをすべて含んだ標準施工量である。 2. 上表には、 <u>50m程度</u> の現場内小運搬が含まれている。							
路盤工	①	[略]							
アスファルト舗装工	①・②	[略]							
マンホール据付	①	[略]							
プレキャストL形側溝	①・②	[略]							
暗渠排水管布設	①・②	[略]							
路側工(据付け)	①	[略]							
路側工(取外し)	①	[略]							
防雪柵設置工	①・②	[略]							
防雪柵現地張出し・収納工	①	[略]							
橋梁排水管設置工	①	[略]							
[新設]	[新設]								

<u>鋼橋床版工</u>	<u>①鋼橋床版工</u>	
	<u>作業名</u>	
	<u>型枠（鋼橋床版）</u>	<u>型枠の補正係数 なし</u>
		<u>型枠の補正係数 0.05 以下</u>
		<u>型枠の補正係数 0.06 以上 0.10 以下</u>
	<u>養生（鋼橋床版）</u>	<u>作業日当たり標準作業量</u>
		20m ² /日
		19m ² /日
		18m ² /日
		63m ² /日
地すべり防止工 (集排水ボーリング工)	①・② [略]	

[新設]	[新設]
地すべり防止工 (集排水ボーリング工)	①・② [略]